

分野	基礎（必須）	教育内容	化学的思考の基盤
教科目	化学		
授業形式	講義	単位(時間)	2単位（30時間・15コマ）
開講時期	1年前期	担当	横田喜一郎
実務経験	なし	水産学博士として研究職に従事。現在 本校兼任教員。	
概要			
<p>基本的な物質の本性について学び、気体、水溶液に関して学習する 化学反応、有機化合物の基本的な事項を学習し、医療現場で様々な 歯科材料などの物質を扱う基礎知識を学習する</p>			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> ① 物質の構造、性質について理解する ② 気体のルール、種類、医療、生活への応用を理解する ③ 水溶液を説明でき、濃度計算が出来る ④ コロイド溶液について説明できる ⑤ 酸とアルカリの性質を説明できる ⑥ 酸化、還元について説明できる ⑦ 化学反応を概説できる ⑧ 有機化合物の特徴を説明できる ⑨ アミノ酸とタンパク質の基本的な構造、機能及び代謝を説明できる ⑩ 糖質の基本的な構造、機能及び代謝を説明できる ⑪ 脂質の基本的な構造、機能及び代謝を説明できる ⑫ 核酸の構造と機能を説明できる 			
授業内容			
【1年前期】			
<ol style="list-style-type: none"> 1) 物質の分類と構造 2) 原子の電子配置、元素の周期律 3) 物質量、化学結合 4) 気体 5) 水溶液の濃さの表し方、希釈水溶液 6) コロイド溶液、酸とアルカリ溶液 7) 酸化と還元、金属のイオン化傾向 8) 化学反応、化学平衡 9) 有機化合物の成り立ち、構造 10) 有機化合物の反応 11) 代表的な化合物と性質、高分子化合物 12) 水の構造と性質、人の主要元素 13) 糖質、アミノ酸とタンパク質 14) 脂質、核酸と核酸関連物質 15) 総括 			
医歯薬出版 歯科衛生士教本 化学			
評価方法 成績評価の方法・基準は、単位認定規程第5条に記載。 定期試験 ：筆記試験を100点満点とし60点未満を不合格とし次の評語で判定する。 秀（100点～90点）、優（89点～80点）、良（79点～70点）、 可（69点～60点）、不可（59点以下）			

分野	基礎(必須)	教育内容	化学的思考の基盤
教科目	生物学		
授業形式	講義	単位(時間)	1単位(15時間・8コマ)
開講時期	1年後期	担当	横田喜一郎
実務経験	なし	水産学博士として研究職に従事。現在 本校兼任教員。	

概要

人間の体の成り立ち、仕組み働きなどを理解する基本と必要な生物学の知識を学習することにより生命の成り立ちと活動、生命の連続、環境の変化への対応、などを学習する

到達目標

- ① 生命が持つ特徴、物質の構成を説明する
- ② 地球上の生命が誕生する過程、物質の起源について説明する
- ③ 細胞が複雑になる過程、生命進化の道筋を説明する
- ④ 細胞を作る主要な元素、水の特徴、役割を説明する
- ⑤ タンパク質、核酸、糖質、脂質などの役割を説明する
- ⑥ 細胞の研究手法、細胞膜、細胞小器官の構造と役割について説明する
- ⑦ 原核細胞と真核細胞の特徴を説明する
- ⑧ 酵素の特徴と役割、ATPの特徴と役割を説明する
- ⑨ 細胞呼吸の種類とそれぞれの過程を説明する
- ⑩ 細胞の運動、分泌活動、情報伝達の仕組みについて説明する
- ⑪ 体細胞分裂のしくみ、細胞周期の過程を説明する
- ⑫ 細胞死の種類と特徴、単細胞説、多細胞生物の特徴を説明する
- ⑬ 無性生殖と有性生殖の違い、配偶子形成について説明する
- ⑭ 減数分裂の特徴について説明する
- ⑮ 遺伝の法則、ヒトの染色体、遺伝子について説明する
- ⑯ DNAの化学的性質、遺伝暗号、転写・翻訳反応について説明する
- ⑰ セントラルドグマについて説明する
- ⑱ 受精と受精卵の特徴、胚形成、三胚葉と組織、器官について説明する
- ⑲ 刺激の受容と反応について仕組みと働きを説明する
- ⑳ 内部環境を保つ仕組みについて説明する
- ㉑ 動物の行動と進化について説明する
- ㉒ 地球環境の問題点について説明する

授業内容

【1年後期】

- 1) 生命とは何か ①生物の特徴 ②生命をつくる物質
 生命の誕生 ①原始地球 ②化学進化と有機物の起源 ③原子細胞
 生命の変遷 ①単細胞の生命体 ②核と細胞小器官の起源
 ③多細胞生物 ④生物進化
- 2) 細胞 ①細胞を作る物質 ②生命の単位・細胞
 ③細胞小器官 ④細胞の活動
- 3) 細胞の一生と個体の成り立ち ①細胞の一生 ②単細胞生物と多細胞生物
 ③ヒトの組織 ④ヒトの器官
 生命の連続 ①生殖の方法 ②減数分裂
- 4) 遺伝と遺伝子 ①遺伝とのその法則 ②生命をつくる仕組み
 ③遺伝子を働かせる仕組み
- 5) 発生 ①過程 ②仕組み
- 6) 刺激 ①刺激の受容 ②神経系による伝達
 ③中枢神経と末梢神経 ④反応と効果器
- 7) 内部環境 ①多細胞生物の細胞 ②ホルモンと働き
 ③自律神経とホルモンの協調作用 ④生体防御
 動物の行動と進化 ①動物の行動 ②人の進化と未来
- 8) 総括

医歯薬出版 歯科衛生士教本 生物学

評価方法 成績評価の方法・基準は、単位認定規程第5条に記載。

定期試験：筆記試験を100点満点とし、60点未満を不合格とし、次の評語で判定する。

秀(100点～90点)、優(89点～80点)、良(79点～70点)、
 可(69点～60点)、不可(59点以下)

分野	基礎（必須）	教育内容	人間と生活
教科目	社会学		
授業形式	講義	単位(時間)	2単位（30時間・15コマ）
開講時期	2年前期	担当	中尾 啓治
実務経験	なし	別府溝部学園客員教授。本校兼任教員。	
概要			
現代社会の仕組みと其の変化について、どのような現法と課題が生じ、どのような対策がとられているのかを考える			
到達目標			
① 現代社会の様々な変化とその問題点について、理解することができる			
② 社会の変化に対する対応策と課題について、理解することができる			
③ 社会に積極的にかかわっていく知識と、対応力を身につける			
授業内容			
【2年前期】			
1) ガイダンス・講義概要 （社会学とは、社会をどのように見つめるか、現代社会と変化）			
2) 私からあなたへ、あなたから私へ （わかりあえるということ、理解のズレ、コミュニケーション技法）			
3) 私が私であること、私たちを支える社会の仕組み （アイデンティティ、自己実現と私たちを支える社会のしくみ）			
4) スティグマとレッテル （選別と排除のメカニズム、社会的排除と社会的包摂）			
5) 現実と虚構のはざま、インターネットの世界と私たち （インターネットの世界と私たち、ネットに関連する諸問題）			
6) ジェンダー （ジェンダーとは、ワーク・ライフ・バランス、男女雇用機会均等法）			
7) 私たちをとりまくルール （規範と制度、コミュニケーションの自己準拠、紛争と法）			
8) 社会と権力・雇用社会 （変わる雇用、労働保険と給付、雇用社会の変化と課題）			
9) 不平等と正義 （日本の理想の家族、社会保障の機能、格差社会の是正）			
10) 共同体、家族 （家族とはなにか、家族をめぐる諸問題、児童虐待の防止）			
11) 市民社会・安心安全を実現するための国家の介入 （国民を意識するとき、消費生活の安心、安全）			
12) グローバル化、情報化の進展とプライバシー （グローバル化と福祉国家、情報化の進展と個人情報の保護）			
13) 移民と国家、グローバル化 （変貌する現代の社会、ソーシャル・インクルージョン）			
14) ポストモダン社会と私たち （ポストモダン社会はユートピアか、現代社会の特質と社会福祉）			
15) 総括			
有斐閣アルマ 社会学のエッセンス			
評価方法 成績評価の方法・基準は、単位認定規程第5条に記載。			
定期試験：筆記試験を100点満点とし60点未満を不合格とし次の評語で判定する。			
秀（100点～90点）、優（89点～80点）、良（79点～70点）、 可（69点～60点）、不可（59点以下）			

分野	基礎分野（必須）	教育内容	人間と生活
教科目	歯科英語		
授業形式	講義	単位(時間)	1単位（16時間・8コマ）
開講時期	1年前期	担当	中尾俊一郎
実務経験	なし	高等学校英語教諭として従事後、本校兼任教員として英語を担当。	

概要

歯の名称、構造及び歯式、歯科学に関連する基礎医学分野、歯科学の諸分野、
歯科診療に関する必須用語を学ぶ

到達目標

歯科学に関連する基礎医学及び歯科学に関する英語の用語や名称などを学ぶと共に
その基本的な内用を理解することによって実務や職業人として必要な基礎学的な
知識を身につける

授業内容

【1年前期】

- 1) 歯の名称、構造および歯式
- 2) 歯科学に関連する基礎医学分野 解剖学
歯科学に関連する基礎医学 病理学
- 3) 歯科学に関連する基礎医学 微生物学
歯科学に関連する基礎医学 生理学
- 4) 歯科学に関連する基礎医学 薬理学
歯科学の諸分野 歯科保存学・歯科補綴学
- 5) 歯科学の諸分野 口腔外科学
歯科学の諸分野 歯周病学
- 6) 歯科学の諸分野 口腔衛生
歯科学の諸分野 小児歯科学
歯科学の諸分野 歯科矯正学
- 7) 歯科診療に関する必須用語 初心・既往歴・現症
現症 全身状態・局所所見・顎および項・歯牙の状態・沈着物・軟組織及びその他
- 8) 総括

歯科英語マニュアル プリント

評価方法 成績評価の方法・基準は、単位認定規程第5条に記載。

定期試験：筆記試験を100点満点とし、60点未満を不合格とし、次の評語で判定する。

- 秀（100点～90点）、優（89点～80点）、良（79点～70点）、
可（69点～60点）、不可（59点以下）

分野	基礎分野（必須）	教育内容	人間と生活
教科目	外国語		
授業形式	講義	単位(時間)	1単位（16時間・8コマ）
開講時期	2年前期	担当	中尾俊一郎
実務経験	なし	高等学校英語教諭として従事後、本校兼任教員として英会話を担当。	

概要

第一次歯と第二次歯、医科診療に関する必須用語を身につける

到達目標

歯科診療に関する必須用語を学ぶと共に、その基本的な内用を理解することによって
実務や職業人として必要な基礎的知識を身につける

授業内容

【2年前期】

- 1) 第一次歯
- 2) 第二次歯
- 3) 歯科診療に関する必須用語（現症）
- 4) 現症 軟組織及びその他
- 5) 現症 疼痛・根管治療
- 6) 現症 歯周病理学・歯科補綴学
- 7) 現症 口腔外科学
- 8) 総括

歯科英語マニュアル プリント

評価方法 成績評価の方法・基準は、単位認定規程第5条に記載。

定期試験：筆記試験を100点満点とし、60点未満を不合格とし、次の評語で判定する。

- 秀（100点～90点）、優（89点～80点）、良（79点～70点）、
可（69点～60点）、不可（59点以下）

分野	基礎分野（必須）	教育内容	人間と生活
教科目	キャリアデザインⅠ・Ⅱ		
授業形式	講義	単位(時間)	2単位(30時間・15コマ)
開講時期	1年前期	担当	根岸由紀江
実務経験	なし	マナーインストラクター。本校兼任教員。	
概要			
自分の将来像を明確にし、社会人、医療人としての考え方、患者様への対応方法を身につけ、患者様の気持ちを聞き、歯科の知識を伝える技術を習得する。			
到達目標			
①社会人としてのマナー、コミュニケーション力を身につける			
②医療人として、自分の将来像を明確にし、自己実現を図る			
③歯科の専門性や治療の必要性を患者様に分かりやすく伝える			
④対人関係に必要な対応法を身につける			
授業内容			
【1年前期】			
キャリアデザインⅡ			
1) オリエンテーション 第一印象の重要性・接遇5原則			
2) 接遇5原則 ①表情、②身だしなみ、③話し方(尊敬語、謙譲語、丁寧語)			
3) 接遇5原則 ③話し方(クッション言葉・NG言葉、感じの良い話し方)			
4) 接遇5原則 ④仕草・態度 ⑤挨拶			
5) 来客対応 ご案内・席次のマナー・お茶出し			
6) 指示の受け方 報告・連絡・相談			
7) 電話対応			
キャリアデザインⅠ			
8) クリニカルコーディネーターとは・コミュニケーションの5原則			
9) クリニカルコーディネーターのミッション (カウンセリングからコーチング) アクティブリスニング・アグノリッジメント			
10) 効果的な質問			
11) コーチング・ティーチング			
12) プレゼンテーションスキル			
13) ケーススタディ			
14) アンガーマネジメント(感情のコントロール)			
15) 自律型人材になろう ・ 総括			
オリジナルテキスト			
評価方法 成績評価の方法・基準は、単位認定規程第5条に記載。			
定期試験：筆記試験を100点満点とし、60点未満を不合格とし、次の評語で判定する。			
秀(100点～90点)、優(89点～80点)、良(79点～70点)、 可(69点～60点)、不可(59点以下)			

分野	基礎分野（必須）	教育内容	人間と生活
教科目	情報リテラシー		
授業形式	講義・演習	単位(時間)	1単位（16時間・8コマ）
開講時期	1年後期	担当	實本真理子
実務経験	なし	現別府溝部学園短期大学講師。本校兼任教員。	

概要

パソコンの代表的なソフトウェアである（Microsoft Office Word）を通じて、日本語の入力および文書処理能力を身につけるとともに、情報リテラシーを学び、コンピュータ活用能力の向上を図ることを目的とする。また、日本語ワープロ検定の演習問題を解き、日本語ワープロ検定3級以上のスキル習得をめざす。

到達目標

- ①情報実務に関する基本的な用語を説明できる。
- ②情報実務に必要な情報機器の基本的な操作ができる。
- ③情報実務に必要なMicrosoft Office Wordを活用し文書を作成できる。

授業内容

【1年後期】

- 1) 情報モラルとWindowsの基本操作①パソコンの概要
Windows基本操作②画面構成・ファイルやフォルダ操作
- 2) 入力基礎（タッチタイピング）
Wordの基本操作①Wordの基本画面・書式設定
- 3) Wordの基本操作②Wordの書式設定
Wordを利用し入力の応用
- 4) Wordの図形処理①表や罫線
Wordの図形処理②表の書式設定
- 5) 表を含む文書の作成
Wordの図形処理③図形
- 6) Wordの図形処理④図
図形を含む文書の作成
- 7) ビジネス文書の概要
ビジネス文書の作成
- 8) これまでの知識と技能を活用した文書の作成

テキスト

必要に応じ資料を配布する

評価方法 成績評価の方法・基準は、単位認定規程第5条に記載。

定期試験：筆記試験を100点満点とし、60点未満を不合格とし、次の評語で判定する。

- 秀（100点～90点）、優（89点～80点）、良（79点～70点）、
可（69点～60点）、不可（59点以下）

分野	専門基礎分野（必須）	教育内容	人間（歯・口腔を除く）の構造と機能
教科目	解剖学		
授業形式	講義	単位（時間）	2単位（30時間・15コマ）
開講時期	1年前期	担当	伊東 励・実務経験者
実務経験	あり	伊東 励：歯科医師として歯科医療に従事。本校兼任教員 専任教員：歯科衛生士として歯科医療に従事。現在、本校専任教員	

概要

人体の成り立ちを理解するために体の構造に関する基本的知識を習得する

到達目標

- ① 身体の部位を解剖学的な名称で表現できる
- ② 身体の方角用語を正確に用いることができる
- ③ 骨の機能と構造について説明できる
- ④ 骨の発生、上肢骨、下肢骨の種類と形態について説明できる
- ⑤ 食物が消化・吸収される経路を理解できる
- ⑥ 各部位における基本構造を説明できる
- ⑦ 体循環と肺循環について説明できる
- ⑧ 血液を構成する成分とその機能を説明できる
- ⑨ 心臓の基本構造を仕組みを説明できる
- ⑩ 血圧を調節する仕組みを説明できる
- ⑪ リンパ系の構造と機能を説明できる
- ⑫ 神経系を分類し、各神経系の解剖学的特徴を説明できる
- ⑬ 興奮と電動の仕組みを説明できる
- ⑭ 中枢神経、末梢神経の構造と特徴を説明できる
- ⑮ 神経系の主な伝導路を説明できる

授業内容

【1年前期】

- 1) 人体の構造と機能を学ぶにあたって
 1. 骨格系 ①概説
 - 2) ②発生 ③頭蓋骨 ④体幹骨 ⑤上肢骨 ⑥下肢骨
 - 3) 2. 筋と運動①概説 ②各部位の筋系
 - 4) ③運動 ④筋電図
 - 5) 3. 消化・吸収①意義 ②構造 ③口腔での消化 ④胃の機能
 - 6) ⑤小腸の機能 ⑥大腸の機能
 - 7) 4. 循環 ①脈管系の概要 ②血管の構造 ③血管の機能
 - 8) ④血液
 - 9) ⑤心臓
 - 10) ⑥動脈系 ⑦静脈系
 - 11) ⑧胎児の循環系 ⑨リンパ系
 - 12) 5. 神経系 ①概要 ②構成 ③中枢神経系 ④脳関髄膜 ⑤脳の血管
 - 13) ⑥末梢神経系 1
 - 14) ⑥末梢神経系 2 ⑦神経系の主な伝導路
 - 15) 総括

医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学

評価方法 成績評価の方法・基準は、単位認定規程第5条に記載。

定期試験：筆記試験を100点満点とし、60点未満を不合格とし、次の評語で判定する。

- 秀（100点～90点）、優（89点～80点）、良（79点～70点）、
可（69点～60点）、不可（59点以下）

分野	専門基礎分野（必須）	教育内容	人間（歯・口腔を除く）の構造と機能
教科目	組織発生学		
授業形式	講義	単位（時間）	1単位（16時間・8コマ）
開講時期	1年前期	担当	専任教員 実務経験者
実務経験	あり	歯科衛生士として歯科医療に従事。現在、本校専任教員	
概要			
人体の成り立ちを理解するために、組織・発生に関する基本的知識を習得する			
到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ① 細胞膜、核、細胞小器官の構造と機能を説明できる ② 細胞の基本的生理機能を概説できる ③ 細胞死の種類と機序を概説できる ④ 組織の定義を説明し、分類できる ⑤ 上皮組織の特徴を説明し、形態的と機能的に分類できる ⑥ 外分泌腺と内分泌腺の違いを説明できる ⑦ 皮膚と粘膜の構造・機能の違いを説明できる ⑧ 支持組織の特徴を説明し、分類できる ⑨ 結合組織の所在と構成を説明できる ⑩ 筋組織の構造と機能を説明できる ⑪ 神経組織の構造と機能を説明できる ⑫ 遺伝子と遺伝情報を概説できる ⑬ 受精と着床の時期と場所を説明できる ⑭ 胚葉の形成を概説できる ⑮ 胎児の成長と発育を概説できる 			
授業内容			
【1年前期】			
<ul style="list-style-type: none"> 1) 細胞と組織 ①細胞 2) ②組織 1 3) ②組織 2 4) 発生 ①染色体と減数分裂 5) ②精子と卵子の発生 ③受精と着床 6) ③廃用の形成 7) ④胎児の成長と発育 8) 総括 			
医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学			
評価方法 成績評価の方法・基準は、単位認定規程第5条に記載。 定期試験：筆記試験を100点満点とし、60点未満を不合格とし、次の評語で判定する。 秀（100点～90点）、優（89点～80点）、良（79点～70点）、 可（69点～60点）、不可（59点以下）			

分野	専門基礎分野（必須）	教育内容	人間（歯・口腔を除く）の構造と機能
教科目	生理学		
授業形式	講義	単位（時間）	1単位（16時間・8コマ）
開講時期	1年前期	担当	専任教員 実務経験者
実務経験	あり	歯科衛生士として歯科医療に従事。現在、本校専任教員	

概要

人体の成り立ちを理解するために、体の機能に関する基本的知識を習得する

到達目標

- ① 呼吸の意義を説明できる
- ② 呼吸器、胸郭の構造と機能を関連付けることができる
- ③ ガス交換の仕組みを説明できる
- ④ 呼吸運動に影響を与える因子、制御のしくみを説明できる
- ⑤ さまざまな刺激により引き起こされる感覚のメカニズムを概説できる
- ⑥ 活動電位について説明できる
- ⑦ 受容器の構造、各感覚装置を概説できる
- ⑧ 特殊感覚器の構造・機能を説明できる
- ⑨ 排泄の意義を説明できる
- ⑩ 正常な尿の一般的性状、腎臓の構造と循環系との関係を説明できる
- ⑪ 尿背の生成の仕組み、排尿の仕組みを概説できる
- ⑫ 体温を一定に保つことの意義を説明できる
- ⑬ 体熱産生、放散を説明できる
- ⑭ 体温調節、体温調節中枢、発熱のメカニズムを概説できる
- ⑮ 内分泌線の種類とホルモンの働きを説明できる
- ⑯ 生殖器の構造、性周期にかかわるホルモンの名称と作用を説明できる
- ⑰ 性周期と体温変化について説明できる

授業内容

【1年前期】

- 1) 呼吸 ①呼吸 ②呼吸器の構成 ③胸郭の構造と換気の仕組み
④肺気量と換気量 ⑤ガス交換 ⑥血液中の運搬 ⑦調節
- 2) 感覚 ①基本的性質 ②体性・内臓感覚
③外皮 ④特殊感覚器の構造と機能
- 3) 排泄 ①排泄とは ②排便 ③皮膚からの排泄 ④排尿
- 4) 体温 ①体熱の産生 ②体熱の放散 ③体温の調節 ④体温の変動
- 5) 内分泌 ①内分泌器官とホルモン ②器官の構造と機能
- 6) ③その他のホルモン ④歯とホルモン
- 生殖 ①生殖器
- 7) ②性周期 ③受精と妊娠 ④分娩と乳汁分泌 ⑤更年期
- 8) 総括

医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学

評価方法 成績評価の方法・基準は、単位認定規程第5条に記載。

定期試験：筆記試験を100点満点とし、60点未満を不合格とし、次の評語で判定する。

秀（100点～90点）、優（89点～80点）、良（79点～70点）、
可（69点～60点）、不可（59点以下）

分野	専門基礎分野（必須）	教育内容	人間（歯・口腔を除く）の構造と機能
教科目	口腔解剖学・歯牙解剖学		
授業形式	講義	単位(時間)	2単位（30時間・15コマ）
開講時期	1年前期	担当	伊東 励・専任教員 実務経験者
実務経験	あり	伊東 励：歯科医師として歯科医療に従事。本校兼任教員 専任教員：歯科衛生士として歯科医療に従事。現在、本校専任教員	

概要

顔面、口腔及びおの周囲組織の成り立ちを理解するために、口腔とその周囲組織の構造に関する基本的知識を習得する

到達目標

- ① 口腔の範囲と各部位の名称を説明できる
- ② 口腔前庭と固有口腔を説明し存在する構造物の名称をあげることができる
- ③ 舌の構造と支配神経を概説できる
- ④ 口蓋の構造を説明できる
- ⑤ 頭蓋を構成する骨の名称を証明できる
- ⑥ 鼻腔と副鼻腔を説明できる
- ⑦ 大泉門と小泉門を説明できる
- ⑧ 翼口蓋窩を説明できる
- ⑨ 上顎骨と下顎骨の構造を概説できる
- ⑩ 咀嚼筋の名称、起始、停止、作用、支配神経を説明できる
- ⑪ 顎観閲の構造と機能を概説できる
- ⑫ 頭頸部に分布する動脈と静脈の特徴とその違いを説明できる
- ⑬ 顎動脈を概説できる
- ⑭ 口腔付近にあるリンパ節を説明できる
- ⑮ 脳神経の名称、性質、頭蓋から出る骨の穴の名称を説明できる
- ⑯ 三叉神経を説明できる
- ⑰ 顔面神経を概説できる
- ⑱ 嚥下に関与する脳神経を概説できる
- ⑲ 頭部に分布する自律神経を概説できる

授業内容

【1年前期】

- 1) 口腔付近の解剖学 ①口腔とは
- 2) ②口腔を構成する骨
- 3) ③頭頸部の筋と作用
- 4) ④顎関節
- 5) 口腔付近に分布する脈管系 - 動脈系
- 6) - 静脈系
- 7) - リンパ系
- 8) 神経 - 脳神経-1
- 9) 脳神経-2
- 10) 脳神経-3
- 11) 神経 - 脊髄神経
- 12) 神経 - 自律神経-1
- 13) 神経 - 自律神経-2
- 14) 神経 - 自律神経-3
- 15) 総括

医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学

評価方法 成績評価の方法・基準は、単位認定規程第5条に記載。

定期試験：筆記試験を100点満点とし、60点未満を不合格とし、次の評語で判定する。

秀（100点～90点）、優（89点～80点）、良（79点～70点）、
可（69点～60点）、不可（59点以下）

分野	専門基礎分野（必須）	教育内容	歯・口腔の構造と機能
教科目	口腔解剖学・歯牙解剖学		
授業形式	講義	単位(時間)	1単位（16時間・8コマ）
開講時期	2年前期	担当	伊東 励・専任教員 実務経験者
実務経験	あり	伊東 励：歯科医師として歯科医療に従事。本校兼任教員 専任教員：歯科衛生士として歯科医療に従事。現在、本校専任教員	

概要

口腔及びその周囲組織の成り立ちを理解するために、歯牙の構造に関する基礎的知識を習得する

到達目標

- ① 歯の表示法や記号について説明できる
- ② 歯種を鑑別できる
- ③ 歯の萌出順について説明できる
- ④ 歯列を咬合について説明できる
- ⑤ 歯の形態を歯種別に説明できる
- ⑥ 歯の形態異常について説明できる

授業内容

【2年前期】

- 1) 1. 歯の機能 2. 歯の交換 3. 歯の植立 4. 歯の組織
- 2) 5. 歯の形態 6. 歯の種類と数 7. 歯の表示方法 8. 歯式
- 3) 9. 歯の位置による名称 10. 歯の用語 11. 根管の形態 12. 左右の識別
- 4) 永久歯 1. 特徴 2. 形態学的特徴 1
- 5) 2. 形態学的特徴 2
- 6) 乳歯 1. 特徴 2. 形態学的特徴
- 7) 特色のある歯の形態、歯列と咬合
- 8) 総括

医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学

評価方法 成績評価の方法・基準は、単位認定規程第5条に記載。

定期試験：筆記試験を100点満点とし、60点未満を不合格とし、次の評語で判定する。

秀（100点～90点）、優（89点～80点）、良（79点～70点）、
可（69点～60点）、不可（59点以下）

分野	専門基礎分野（必須）	教育内容	人間（歯・口腔を除く）の構造と機能
教科目	口腔組織発生		
授業形式	講義	単位（時間）	1単位（16時間・8コマ）
開講時期	1年前期	担当	専任教員 実務経験者
実務経験	あり	歯科衛生士として歯科医療に従事。現在、本校専任教員	
概要			
歯・口腔の成り立ちを理解するために、口腔組織・発生に関する基本的知識を習得する			
到達目標			
① 歯の発生の概要を概説できる			
② エナメル質、象牙質、セメント質の形成の違いを説明できる			
③ 歯の萌出過程とその機序を説明できる			
④ 歯の交換を説明できる			
授業内容			
【1年前期】			
1) 歯と歯周組織の発生 ①先行歯の発生			
2) ②代生歯および加生歯の発生			
3) ③歯の萌出 ④歯の脱落と交換 ⑤歯の萌出の臨床的考察			
4) 歯および歯周組織の構造と機能 ①エナメル質			
5) ②象牙質・歯髄複合体			
6) ③セメント質 ④歯根膜 ⑤歯槽骨			
7) ⑥歯肉 ⑦歯周組織の生理 ⑧口腔粘膜			
8) 総括			
医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学			
評価方法 成績評価の方法・基準は、単位認定規程第5条に記載。			
定期試験：筆記試験を100点満点とし、60点未満を不合格とし、次の評語で判定する。			
秀（100点～90点）、優（89点～80点）、良（79点～70点）、			
可（69点～60点）、不可（59点以下）			

分野	基礎（必須）	教育内容	疾病の成り立ち及び回復機能の促進
教科目	病理学・口腔病理学		
授業形式	講義	単位（時間）	2単位（30時間・15コマ）
開講時期	1年前期	担当	矢田 直美 実務経験者
実務経験	あり	歯科医師として九州歯科大学に勤務。本校兼任教員	
概要			
疾病の発生機序および病理学的特徴を理解するために疾病の概念、病因と病態に関する基本的知識を習得する			
到達目標			
病理学① 細胞組織の障害を概説できる			
② 増殖と修復について病変を概説できる			
③ 肉芽組織とその構成成分を説明できる			
④ 肉芽組織が関与する病変を列挙できる			
⑤ 異物の処理を説明できる			
⑥ 創傷の治癒過程を説明できる			
⑦ 循環障害について、各状態を概説出来る			
⑧ 出血の原因、種類、転帰を概説できる			
⑨ 血栓、塞栓の形成期所、転帰を概説できる			
⑩ 水腫の原因、症状、転帰を説明できる			
⑪ 一次性ショックと二次性ショックの違いを説明できる			
⑫ 炎症の定義を説明できる			
⑬ 炎症に関する細胞の種類と機能を説明できる			
⑭ 炎症を分類できる			
⑮ 滲出性炎とその経時的变化を概説できる			
⑯ 膿瘍、蜂窩織炎、蓄膿症の違いを説明できる			
⑰ 肉芽性炎の定義を述べ、代表的な肉下種性炎を列挙できる			
⑱ 免疫異常、移植免疫を概説できる			
⑲ 腫瘍の定義、病因、進展を概説できる			
⑳ 腫瘍の局所での発育、浸潤、転移を概説できる			
㉑ 良性腫瘍と悪性腫瘍の違いを概説できる			
㉒ 腫瘍を分類できる			
㉓ 前癌病変を概説できる			
口腔病理学① 歯の損傷、発育障害の種類と病態を外悦出来る			
② デンタルプラーク、歯石の形成とその為害性を説明できる			
③ う蝕の病因と病態を説明できる			
④ う蝕を組織学的に分類し、その特徴を説明できる			
⑤ 酸蝕症の病因や病態を説明できる			
⑥ 歯頸部知覚過敏法の病因や病態を説明できる			
⑦ 歯髄疾患の病因と病態を説明できる			
⑧ 歯髄炎を分類し、その特徴を説明できる			
⑨ 根尖性歯周疾患の病因と病態を説明できる			
⑩ 根尖性歯周疾患を分類し、その特徴を説明できる			
⑪ 歯周疾患の病因と病態を説明できる			
⑫ 抜歯創の治癒過程を説明できる			
⑬ 口腔粘膜疾患の種類と特徴を概説できる			
⑭ 口腔領域の膿瘍、腫瘍、唾液疾患を概説できる			
授業内容			
【1年前期】			
1) 病理学を学ぶための基礎的事項・1章 病理学序論と病因論			
2) 口腔1章 歯の発育異常 ・ 2章 歯の損傷と着色・付着物			
3) 2章 遺伝性疾患と奇形 口腔11章 口腔両機の奇形			
4) 口腔3章 う蝕			
5) 6章 炎症と免疫応答異常			
6) 口腔4章 象牙質・歯髄複合体の病態			
7) 4章 代謝障害と退行性病変			
8) 口腔5章 歯周組織の病態			
9) 5章 増殖と修復			
10) 7章 腫瘍			
11) 口腔7章 口腔領域の嚢胞と腫瘍 ・ 口腔8章 口腔癌			
12) 3章 循環障害			
13) 口腔10章 唾液腺の病変 ・ 口腔9章 顎骨の病変			
14) 口腔12章 口腔組織の加齢変化			
15) 総括			
医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進1 病理学・口腔病理学			
評価方法 成績評価の方法・基準は、単位認定規程第5条に記載。			
定期試験：筆記試験を100点満点とし、60点未満を不合格とし次の評語で判定する。			
秀（100点～90点）、優（89点～80点）、良（79点～70点）、			
可（69点～60点）、不可（59点以下）			

分野	基礎（必須）	教育内容	疾病の成り立ち及び回復機能の促進
教科目	薬理学・歯科薬理学		
授業形式	講義	単位(時間)	1単位（20時間・10コマ）
開講時期	1年後期	担当	山本 恒雄 実務経験者
実務経験	あり	歯科医師として歯科医療に従事。本校兼任教員、臨床実習歯科医院指導者	
概要			
薬物の性質、薬理作用、作用機序および副作用を理解するために、疾病の回復を促進する薬に関する基本的知識を習得する			
到達目標			
薬理① 薬物療法を説明できる			
② 薬理作用の基本と分類を説明できる			
③ 薬物の作用機序を説明できる			
④ 薬物の適用方法の種類とその特徴を説明できる			
⑤ 薬物動態を説明できる			
⑥ 薬理作用を規定する要因を説明できる			
⑦ 薬物の連用の影響を説明できる			
⑧ 妊産婦・小児・高齢者への薬物投与の特徴を説明できる			
⑨ 医薬品の分類を説明できる			
⑩ 毒薬、劇薬および麻薬などの表示と保管を説明できる			
⑪ 医薬品、医療機器等の品質、有効性および安全性の確保に関する法律を説明できる			
⑫ 日本薬局方を説明できる			
⑬ 薬物の取扱いを説明できる			
⑭ 主な中枢神経作用薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる			
⑮ 主な末梢神経作用薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる			
⑯ 循環・呼吸系に作用する主な薬物の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる			
⑰ 血液凝固の過程、主な止血薬、抗血栓薬、抗貧血薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる			
⑱ 炎症のメカニズムを説明できる			
⑲ 主な抗炎症薬、解熱鎮痛薬、消炎酵素薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる			
⑳ 感染症を概説でき、主な抗感染症薬と消毒薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる			
歯科薬理① う蝕の予防に用いる薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる			
② 歯・歯髄疾患に用いる薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる			
③ 歯周疾患に用いる薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる			
④ 洗口液を説明できる			
⑤ 服薬に関する一般的事項を説明できる			
⑥ 対象者別の服薬指導を説明できる			
授業内容			
【1年後期】			
1) 薬物の作用、薬物動態、薬物の適用方法 薬物の作用に影響を与える因子、薬物の副作用・有害作用			
2) 医薬品を適用する際の注意、薬物の取り扱い、薬物と法律 ビタミン・ホルモン、中枢神経系・末梢神経系に作用する薬物			
3) 循環器系、腎臓、呼吸器系、消化器系に作用する薬物			
4) 血液に作用する薬物、免疫と薬、悪性腫瘍と薬、代謝性疾患治療薬			
5) 炎症と薬、痛みと薬、局所麻酔薬、抗感染症薬、消毒に作用する薬			
6) う蝕予防薬			
7) 歯内療法薬 ①歯髄の保存に用いる薬剤 ②根管治療に用いる薬物 ③象牙質知覚過敏症に用いる薬物			
8) 歯周疾患治療薬 ①薬物療法 ②急性炎症に用いる薬物 ③歯周治療に用いる薬物 ④洗口薬 ⑤口臭治療に用いる薬物 ⑥その他			
9) 顎・口腔粘膜、漢方医学と薬物			
10) 総括			
医歯薬出版 歯科衛生シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進3 薬理学			
評価方法 成績評価の方法・基準は、単位認定規程第5条に記載。			
定期試験：筆記試験を100点満点とし、60点未満を不合格とし、次の評語で判定する。 秀（100点～90点）、優（89点～80点）、良（79点～70点）、 可（69点～60点）、不可（59点以下）			

分野	専門分野（必須）	教育内容	歯科保健指導論
教科目	栄養学・生化学		
授業形式	講義	単位（時間）	1単位（16時間・8コマ）
開講時期	1年後期	担当	横田喜一郎・専任教員 実務経験者
実務経験	なし	横田喜一郎：水産学博士として研究職に従事。現在 本校兼任教員。	
	あり	専任教員：歯科衛生士として歯科医療に従事。現在、本校専任教員	
概要			
人間が生命を維持するために重要な栄養・食生活を理解するために、栄養と食生活に関する基本的知識を習得する			
到達目標			
<p>栄養① 健康の維持のために、栄養の知識を学ぶ意義を知る</p> <p>② 現代人の食物の摂取における栄養上の問題点を学ぶ</p> <p>③ 栄養素の消化・吸収の基本を知る</p> <p>④ 栄養素の相互作用、相互の影響について健康維持との関連を知る</p> <p>⑤ 食事摂取基準とは何かを知る</p> <p>⑥ 個人のエネルギー必要量の求め方、摂取量の評価方法を知る</p> <p>⑦ 脂肪エネルギー比率とは何か、なぜ重要視されるのかを知る</p> <p>⑧ 付加運動による消費エネルギーの増加が求められる理由を知る</p> <p>⑨ 食品から摂取している糖質、タンパク質、脂質について、生体での役割を理解する</p> <p>⑩ ビタミンの種類および個々の働きについて理解する</p> <p>⑪ ミネラルの種類および個々の働きについて理解する</p> <p>⑫ 食生活と健康との関連についてマクロな視点で把握し、健康の維持・増進を進めるための栄養指導の必要性について理解する</p> <p>⑬ 健康づくりにおける食生活改善の取り組みについて、歯科衛生士として果たすべき役割を理解する</p> <p>⑭ 成長期、成人期、高齢期に至るライフステージ別の食生活の特徴を把握する</p> <p>⑮ 食品の3つの機能性について理解を深める</p> <p>⑯ 健康づくりのための食事計画の進め方について学習する</p> <p>⑰ 食品の特性をおいしさ要因、物性・テクスチャーなどから理解する</p> <p>生化学① 生命の基本である細胞の構造や細胞小器官の働きを理解する</p> <p>② 生体の反応に必要な水の働きを理解する</p> <p>③ 生体構成成分と栄養素について理解する</p> <p>④ 消化管で起こる栄養素の消化および吸収について理解する</p> <p>⑤ 酵素の運搬と二酸化炭素の排出について理解する</p> <p>⑥ 細胞内でおこる代謝について理解する</p> <p>⑦ エネルギー代謝の全体像を理解する</p> <p>⑧ 主要なエネルギー基質である糖質の代謝を理解する</p> <p>⑨ 主要なエネルギー基質である脂質の代謝を理解する</p> <p>⑩ タンパク質が消化され、アミノ酸と吸収されることを理解する</p> <p>⑪ アミノ酸の代謝分解酵素を理解する</p> <p>⑫ アミノ酸を材料としてタンパク質が合成される過程を理解する</p> <p>⑬ 体内の内部環境が安定に維持される恒常性を、血液pHと血糖値の調節を例として理解する</p> <p>⑭ 恒常性を保つ仕組みとして、ホルモン系と自律神経系があることを理解する</p>			
授業内容			
【1年後期】			
<p>1) 栄養の基礎知識・食事摂取基準</p> <p>2) 栄養素の働き・食生活と健康・食べ物と健康</p> <p>3) 生体の構成要素・生体における化学反応</p> <p>4) 糖質と脂質の代謝・タンパク質とアミノ酸の代謝</p> <p>5) 生体における恒常性の維持・歯と歯周組織の生化学</p> <p>6) 硬組織の生化学・唾液の生化学</p> <p>7) プラークの生化学</p> <p>8) 総括</p>			
医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能2 栄養と代謝			
<p>評価方法 成績評価の方法・基準は、単位認定規程第5条に記載。</p> <p>定期試験：筆記試験を100点満点とし、60点未満を不合格とし、次の評語で判定する。</p> <p>秀（100点～90点）、優（89点～80点）、良（79点～70点）、可（69点～60点）、不可（59点以下）</p>			

分野	基礎（必須）	教育内容	疾病の成り立ち及び回復機能の促進
教科目	微生物学・口腔微生物学		
授業形式	講義	単位(時間)	2単位(30時間・15コマ)
開講時期	2年前期	担当	専任教員 実務経験者
実務経験	あり	歯科衛生士として歯科医療に従事。現在、本校専任教員	
概要			
微生物の基本的性状、病原性と感染によって生じる病態と声帯の防御機構としての免疫に関する基本的知識を習得する			
口腔の常在微生物とそれらが原因となる疾患を理解するために、微生物の基本的性状病原性と感染によって生じる病態と声帯の防御機構としての免疫に関する基本的知識を習得する			
到達目標			
微生物① 感染と発症を説明できる			
② 微生物の感染機構と病原性を概説できる			
③ 宿主の抵抗性を概説できる			
④ 感染の種類と経路をあげ、概説できる			
⑤ 微生物の形態学的特徴と基本的性状を概説できる			
⑥ 滅菌、消毒の意義と原理を説明できる			
⑦ 院内感染の原因と予防法を説明できる			
⑧ 化学療法の目的と原理を説明できる			
⑨ 微生物の培養と観察法を概説できる			
⑩ 自然免疫と獲得免疫を説明できる			
⑪ 液性免疫と予防性免疫を説明できる			
⑫ 免疫単糖細胞の種類と機能を説明できる			
⑬ 抗原、抗体およびサイトカインを説明できる			
⑭ 免疫反応を利用した検査法を概説できる			
⑮ ワクチンを説明できる			
⑯ アレルギーを概説できる			
口腔微生物① 微生物と口腔環境の関わりを説明できる			
② 口腔錠剤微生物を概説できる			
③ デンタルプラークの形成とその微生物叢を概説できる			
④ バイオフィルム感染症を概説できる			
⑤ う蝕病因菌を概説できる			
⑥ 歯周病原菌を概説できる			
⑦ 微生物が原因で口腔に症状を現す疾患を概説できる			
授業内容			
【2年前期】			
1) 疾病と微生物 ①疾病と微生物、免疫学 ②感染と感染症			
2) 微生物の病原性 ①微生物の位置づけ ②細菌			
3) ③マイコプラズマ属 ④スピロヘータ ⑤リケッチア			
4) ⑥クラミジア ⑦ウイルス ⑧その他の微生物			
5) 宿主防御機構と免疫 ①宿主防御機構 ②免疫機構			
6) ③液性免疫 ④細胞性免疫			
7) ⑤アレルギー			
8) 口腔微生物学 ①口腔細菌叢 ②デンタルプラーク			
9) 口腔感染症 ①う蝕 ②歯内感染症			
10) ③歯周病 ④その他の口腔感染症			
11) 化学療法 ①化学療法と化学療法薬 ②主な化学療法薬の種類と特徴			
12) ③抗菌スペクトル ④生体内動態			
13) ⑤薬剤感受性試験 ⑥薬剤耐性 ⑦有害作用			
14) 院内感染対策と滅菌・消毒、細菌培養・顕微鏡観察			
15) 総括			
医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進2 微生物学			
評価方法 成績評価の方法・基準は、単位認定規程第5条に記載。			
定期試験：筆記試験を100点満点とし、60点未満を不合格とし、次の評語で判定する。			
秀（100点～90点）、優（89点～80点）、良（79点～70点）、			
可（69点～60点）、不可（59点以下）			

分野	専門基礎分野（必須）	教育内容	歯・口腔の構造と機能
教科目	口腔生理学		
授業形式	講義	単位(時間)	1単位(16時間・8コマ)
開講時期	1年後期	担当	末吉 智貴
実務経験	なし	歯科医師として歯科医療に従事。本校兼任教員。	
概要			
顔面、口腔およびその周囲組織の成り立ちを理解するために、口腔とその周囲組織の機能に関する基本的知識を習得する			
到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ① 感覚のメカニズム、特徴を概説できる ② 味覚の生物学的役割を概説でき、受容の仕組みについて概説できる ③ 味覚検査法と味覚障害について説明できる ④ 嗅覚の特性と役割、仕組み、味覚障害を説明できる ⑤ 下顎の位置、運動、反射について説明できる ⑥ 咀嚼の定義、意義を説明できる ⑦ 原子反射について説明できる ⑧ 嚥下・嘔吐の意義と機序を説明できる ⑨ 発声の仕組みを説明できる ⑩ 構音障害の種類を説明できる ⑪ 歯・口腔の病態が発音に及ぼす影響について説明できる ⑫ 義歯が発音に及ぼす影響について説明できる ⑬ 話し言葉のわかりやすさを評価する方法について説明できる ⑭ 唾液腺の種類、分泌機構を説明できる ⑮ 性状と成分および生理作用を説明できる ⑯ 唾液と疾患との関連を説明できる 			
授業内容			
【1年後期】			
<ul style="list-style-type: none"> 1) 歯と口腔の感覚 ①歯の感覚 ②口腔の感覚 2) 味覚と嗅覚 ①味覚 ②嗅覚 3) 咬合と咀嚼・吸啜 ①下顎位 ②下顎の運動 ③顎反射 ④摂食行動 ⑤咀嚼能力 ⑥吸啜 4) 嚥下と嘔吐 ①嚥下と嘔吐に関わる構造 ②嚥下 ③嘔吐 5) 発声 ①発声機能の概要 ②声の生成 ③言語音の形成 6) ④歯・口腔の病態と発音 7) 唾液 ①唾液腺 ②唾液の分泌機構 ③唾液の性状・成分と機能 ④唾液と疾患 8) 総括 			
医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学			
評価方法 成績評価の方法・基準は、単位認定規程第5条に記載。			
定期試験：筆記試験を100点満点とし、60点未満を不合格とし、次の評語で判定する。			
秀(100点～90点)、優(89点～80点)、良(79点～70点)、 可(69点～60点)、不可(59点以下)			

分野	専門基礎分野（必須）	教育内容	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み
教科目	口腔衛生学・衛生統計学		
授業形式	講義	単位(時間)	3単位(46時間・23コマ)
開講時期	1年前期・後期	担当	藤田 浩・専任教員 実務経験者・横田喜一郎
実務経験	あり	藤田 浩：歯科医師として歯科医療に従事。本校兼任教員、臨床実習歯科医院院長。 専任教員：歯科衛生士として歯科医療に従事。現在、本校専任教員	

概要

歯・口腔の健康に関わる社会の仕組みを理解し、歯科疾患の予防能力を高める態度を養うために、歯・口腔の健康と予防に関する基本的知識を習得する
個人および集団の歯・口腔の健康と予防プログラムを構築するために、関連する保健情報を把握し、衛生統計の手法を習得する。

到達目標

- ① 口腔の健康の定義、口腔と全身の健康の関係を説明できる
- ② 歯・口腔の保持増進手段を概説できる
- ③ 歯・口腔の異常を説明できる
- ④ 歯・口腔の機能、作用を説明できる
- ⑤ 口腔清掃の意義、種類、器材について説明できる
- ⑥ 不適切な口腔清掃による為害作用とその予防法を列挙できる
- ⑦ 歯科疾患の疫学的特性を概説できる
- ⑧ う蝕の発生、予防について説明できる
- ⑨ フッ化物によるう蝕予防について説明できる
- ⑩ 歯周病の発生、進行、原因、予防について説明できる
- ⑪ その他の疾患、異常の予防について説明できる
- ⑫ 歯科疾患の指標を列挙できる
- ⑬ 保健情報の分析手順について説明できる
- ⑭ データの数値の持つ特徴を説明できる
- ⑮ 代表値、散布度、検定法を選択できる
- ⑯ 検定の流れを説明でき、各種検定を説明できる
- ⑰ 図表の種類と特徴を列挙でき、作成できる
- ⑱ 情報の特性を概説でき、個人情報扱い、情報モラルを概説できる

授業内容

【1年前期】

- 1) 総論
- 2) 歯・口腔の健康と予防
- 3) 口腔清掃－1
- 4) 口腔清掃－2
- 5) フッ化物によるう蝕予防
- 6) 保健情報と保健統計
- 7) 保健情報の分析手順
- 8) 前期総括

【1年後期】

- 9) 歯科疾患の疫学
- 10) その他の疾患・異常
- 11) ライフステージごとの口腔保健管理
- 12) 地域保健・公衆衛生
- 13) 母子保健
- 14) 学校保健
- 15) 成人保険
- 16) 産業保健
- 17) 老人保健
- 18) 精神保健
- 19) 国際保健
- 20) 歯科疾患の指数
- 21) 保健統計の方法
- 22) 保健情報の分析
- 23) 総括

医歯薬出版 最新歯科衛生士教本 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学

医歯薬出版 最新歯科衛生士教本 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み2 保健情報統計学

評価方法 成績評価の方法・基準は、単位認定規程第5条に記載。

定期試験：筆記試験を100点満点とし、60点未満を不合格とし、次の評語で判定する。

- 秀（100点～90点）、優（89点～80点）、良（79点～70点）、
可（69点～60点）、不可（59点以下）

分野	専門基礎分野（必須）	教育内容	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み
教科目	衛生・公衆衛生		
授業形式	講義	単位（時間）	1単位（16時間・8コマ）
開講時期	1年後期	担当	専任教員 実務経験者
実務経験	あり	歯科衛生士として歯科医療に従事。現在、本校専任教員	
<p>概要 健康を左右する環境衛生の重要性を理解し、個人と集団に対する健康障害の予防能力を高める態度を養うために、歯・口腔の健康に関わる人間と社会の仕組みに関する基本的知識を習得する</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 健康の定義と国民の権利を説明できる ② 健康づくりの理念、社会環境の理念を説明できる ③ 疫学の定義を説明できる ④ 疾病や異常の発生要因を列挙できる ⑤ 健康・疾病・異常・流行を表す指標を列挙できる ⑥ 疫学研究の方法を説明できる ⑦ 疫学研究における倫理的配慮の必要性を説明できる ⑧ 人口の現状と推移を概説できる ⑨ 人口統計、人口構造を説明できる ⑩ 人口の高齢化、平均寿命の動向を説明できる ⑪ 人間と環境、健康の関係を説明できる ⑫ 地域環境の変化とその対応を説明できる ⑬ 公害問題とその原因物質を列挙できる ⑭ 廃棄物の種類と処理方法を列挙できる ⑮ 感染症の概念と感染成立の要素を説明できる ⑯ 感染予防・流行防止の考え方と対策を説明できる ⑰ 感染症対策上の問題点を説明できる ⑱ 感染症の分類とその内容、主な感染症とその動向を説明できる ⑲ 食中毒の発生状況、分類と特徴を説明できる ⑳ 食品の安全性確保のための方策を列挙できる ㉑ 健康日本21（第二次）における食に関するわが国の政策を説明できる <p>授業内容 【1年後期】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 総論、人口 2) 環境と健康－1 3) 環境と健康－2 4) 疫学 5) 感染症－1 6) 感染症－2 7) 食品と健康 8) 総括 			
医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学			
<p>評価方法 成績評価の方法・基準は、単位認定規程第5条に記載。</p> <p>定期試験：筆記試験を100点満点とし、60点未満を不合格とし、次の評語で判定する。</p> <p>秀（100点～90点）、優（89点～80点）、良（79点～70点）、 可（69点～60点）、不可（59点以下）</p>			

分野	専門基礎分野（必須）	教育内容	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み
教科目	衛生・公衆衛生		
授業形式	講義	単位(時間)	1単位（16時間・8コマ）
開講時期	2年前期	担当	専任教員 実務経験者
実務経験	あり	歯科衛生士として歯科医療に従事。現在、本校専任教員	
概要			
健康を左右する環境衛生の重要性を理解し、個人と集団に対する健康障害の予防能力を高める態度を養うために、歯・口腔の健康に関わる人間と社会の仕組みに関する基本的知識を習得する			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> ① 健康の定義と国民の権利を説明できる ② 健康づくりの理念、社会環境の理念を説明できる ③ 疫学の定義を説明できる ④ 疾病や異常の発生要因を列挙できる ⑤ 健康・疾病・異常・流行を表す指標を列挙できる ⑥ 疫学研究の方法を説明できる ⑦ 疫学研究における倫理的配慮の必要性を説明できる ⑧ 人口の現状と推移を概説できる ⑨ 人口統計、人口構造を説明できる ⑩ 人口の高齢化、平均寿命の動向を説明できる ⑪ 人間と環境、健康の関係を説明できる ⑫ 地域環境の変化とその対応を説明できる ⑬ 公害問題とその原因物質を列挙できる ⑭ 廃棄物の種類と処理方法を列挙できる ⑮ 感染症の概念と感染成立の要素を説明できる ⑯ 感染予防・流行防止の考え方と対策を説明できる ⑰ 感染症対策上の問題点を説明できる ⑱ 感染症の分類とその内容、主な感染症とその動向を説明できる ⑲ 食中毒の発生状況、分類と特徴を説明できる ⑳ 食品の安全性確保のための方策を列挙できる ㉑ 健康日本21（第二次）における食に関するわが国の政策を説明できる 			
授業内容			
【2年前期】			
<ol style="list-style-type: none"> 1) 生活習慣と健康 2) 地域保健 3) 母子保健 4) 学校保健 5) 成人・高齢者保健 6) 産業保健 7) 精神保健 8) 総括 			
医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学			
評価方法 成績評価の方法・基準は、単位認定規程第5条に記載。			
定期試験：筆記試験を100点満点とし、60点未満を不合格とし、次の評語で判定する。			
秀（100点～90点）、優（89点～80点）、良（79点～70点）、可（69点～60点）、不可（59点以下）			

分野	専門基礎分野（必須）	教育内容	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み
教科目	衛生行政・社会福祉		
授業形式	講義	単位(時間)	2単位 (30時間・15コマ)
開講時期	2年前期	担当	専任教員 実務経験者
実務経験	あり	歯科衛生士として歯科医療に従事。現在、本校専任教員	

概要

日本の法律・医療・福祉制度と医事法制を理解し、歯科衛生のあり方を考える態度を養うために、歯科衛生士に必要な法律・制度に関する基本的知識を習得する

到達目標

- ① 日本の医療制度を概説できる
- ② 医療経済の動向を説明でき、医療施設、従事者の現況を説明できる
- ③ 歯科衛生士、歯科医師および歯科技工士の業務を説明できる
- ④ 歯科衛生士資格の成り立ちと目的を説明できる
- ⑤ 歯科衛生士業務とその法的根拠を説明できる
- ⑥ 歯科衛生士の試験・免許に関する手続きを説明できる
- ⑦ 歯科衛生士法に規定されている義務と債務を説明できる
- ⑧ 医療法の成り立ち、遵守事項を説明できる
- ⑨ 歯科医師の指示で歯科診療の補助を行う医療職種を列挙できる
- ⑩ 保健志助産師看護師法の概要と診療の補助を概説できる
- ⑪ 診療放射線技師と言語聴覚士の業務の概略を概説できる
- ⑫ 医師法と薬剤師法の概略を概説できる
- ⑬ 薬事衛生法規、保健衛生法規、予防衛生法規を列記し、その概要を説明できる
- ⑭ 社会保険制度の種類を列挙できる
- ⑮ 社会保険、医療保険、介護保険制度を説明できる
- ⑯ 障害者の保健・医療・福祉制度を説明できる
- ⑰ 歯科衛生士法が関わる社会福祉を説明できる

授業内容

【1年前期】

- 1) 歯科衛生士と法律 ①はじめに ②歯科衛生士法
- 2) ③歯科医師法 ④歯科技工士法
- 3) ⑤歯科口腔保健の推進に関する法律 ⑥医療法
- 4) 医療関係職種 ①歯科医療と関わる医療関係者 ②保健師助産師看護師法
- 5) ③診療放射線技師法 ④言語聴覚士法
- 6) ⑤医師法 ⑥薬剤師法 ⑦その他の医療関係職員に係る法律
- 7) その他の関係法規 ①薬事衛生法規
- 8) ②保健衛生法規 ③予防関係法規
- 9) 社会保障 ①社会保障 ②sh皆保険
- 10) ③医療保険
- 11) ④介護保険
- 12) ⑤年金保険 ⑥雇用保険と労働者災害補償保険
- 13) ⑦社会福祉
- 14) 医療の動向 ①医療状況の動向
- 15) 総括

医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み2 歯科衛生士と法律・制度 第3版

評価方法 成績評価の方法・基準は、単位認定規程第5条に記載。

定期試験：筆記試験を100点満点とし、60点未満を不合格とし、次の評語で判定する。

秀（100点～90点）、優（89点～80点）、良（79点～70点）、
可（69点～60点）、不可（59点以下）

分野	専門（必須）	教育内容	歯科衛生士概論
教科目	歯科衛生士概論		
授業形式	講義	単位（時間）	1単位（16時間・8コマ）
開講時期	2年後期	担当	専任教員 実務経験者
実務経験	あり	歯科衛生士として歯科医療に従事。現在、本校専任教員	

概要

歯科衛生業務を実践して人々の健康づくりを支援するために、保健医療委員としての基本的態度を理解し、多様な科目において知識・技術を習得する態度および論理的思考法の基礎を習得する
対象とする人の歯科衛生ニーズにあった支援をするために倫理的に思考し、問題発見及び開設するための課程を理解する

到達目標

- ① 歯科衛生学を概説できる
- ② 歯科衛生業務の構成要素を説明できる
- ③ 実践にあたってのクリティカルシンキング・批判的に思考する意義を説明できる
- ④ 歯科衛生過程の構成要素を列挙でき、意味を説明できる
- ⑤ 対象者を第一に考えた健康づくりを支援する理由を説明できる
- ⑥ 業務記録の意義を説明できる
- ⑦ 歯科衛生の実践が倫理的である理由を説明できる
- ⑧ インフォームドコンセントにおける患者・家族と保健医療者双方の権利と義務を説明できる
- ⑨ 歯科衛生業務の実践におけるコミュニケーションの必要性を説明できる
- ⑩ 歯科衛生業務実践のための判断力と習熟した技術が必要である理由を説明できる
- ⑪ 保険・医療・福祉分野の専門職の業務を概説できる
- ⑫ 多職種との連携の意義の説明できる
- ⑬ チーム医療を概説できる
- ⑭ 医療安全対策の必要性と方策を概説できる
- ⑮ 論理的思考に基づいた業務展開の意義を説明できる
- ⑯ 歯科衛生過程を概説できる
- ⑰ 歯科衛生アセスメント、計画、診断、介入を説明できる
- ⑱ 歯科衛生業務記録の意義を説明できる
- ⑲ 歯科衛生過程における評価を説明できる

授業内容

【1年後期】

- 1) 歯科衛生学とは
- 2) 歯科衛生の歴史
- 3) 歯科衛生活動のための理論
- 4) 歯科衛生過程
- 5) 歯科衛生士法と歯科衛生業務
- 6) 歯科衛生士と医療倫理
- 7) 歯科衛生士の役割と組織、海外における歯科衛生士
- 8) 総括

医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 歯科衛生学総論

評価方法 成績評価の方法・基準は、単位認定規程第5条に記載。

定期試験：筆記試験を100点満点とし、60点未満を不合格とし次の評語で判定する。

秀（100点～90点）、優（89点～80点）、良（79点～70点）、
可（69点～60点）、不可（59点以下）

分野	専門（必須）	教育内容	医療倫理
教科目	医療倫理		
授業形式	講義	単位（時間）	1単位（16時間・8コマ）
開講時期	2年後期	担当	専任教員 実務経験者
実務経験	あり	歯科衛生士として歯科医療に従事。現在、本校専任教員	

概要

医の倫理の原則を学ぶとともに、歯科衛生士に求められる職業人としての心構えやインフォームド・コンセントに基づいた患者対応、医療現場で必要となるコミュニケーション技術やその基礎となる行動科学について学ぶ

到達目標

- ① 伝統的な医の倫理の特徴を述べるができる
- ② 新しい医の倫理が求められるようになった理由を列記できる
- ③ 医療倫理とは何かについて簡潔に述べるができる
- ④ 患者中心の医療とは何かについて述べるができる
- ⑤ 医療従事者の職業倫理に関する規範について概説できる
- ⑥ 患者の権利、人を対象とする医学研究の倫理について概説できる
- ⑦ バイオエシックスとは何かについて概説できる
- ⑧ 命の始まりと終わりに関する倫理的問題について概説できる
- ⑨ 医療技術の発達をもたらした倫理的問題について概説できる
- ⑩ インフォームド・コンセント、インフォームド・チョイスについて説明できる
- ⑪ セカンドオピニオンについて説明できる
- ⑫ 倫理的欲求としてのインフォームド・コンセントについて概説できる
- ⑬ インフォームド・コンセントの倫理的意義について述べるができる
- ⑭ 研究と医療倫理との関わりについて説明できる
- ⑮ 人を対象とした研究の倫理的指針について概説できる
- ⑯ 倫理的な配慮が必要な研究について説明できる
- ⑰ 研究への協力依頼の方法について説明できる
- ⑱ 生活行動と保健行動について説明できる
- ⑲ QOLとはどういうことが節目できる
- ⑲ 歯科医療におけるQOLの向上について説明できる
- ⑳ 歯科衛生士としてのQOLとの関わり方について説明できる
- ㉑ 歯科衛生士としての生きがいとはどのようなことが考えられるか説明できる

授業内容

【2年後期】

- 1) なぜ医療倫理を学ぶのか
- 2) 医療倫理に関する規範とバイオエシックス
- 3) インフォームド・コンセント
- 4) 研究と医療倫理
- 5) 歯科医療倫理を考えるうえで必要な行動
- 6) その他医療従事者に必要とされること
- 7) 医療倫理に関連する規範と法令
- 8) 総括

医歯薬出版 最新歯科衛生士教本 歯科医療倫理

評価方法 成績評価の方法・基準は、単位認定規程第5条に記載。

定期試験：筆記試験を100点満点とし、60点未満を不合格とし、次の評語で判定する。

秀（100点～90点）、優（89点～80点）、良（79点～70点）、
可（69点～60点）、不可（59点以下）

分野	専門（必須）	教育内容	臨床歯科医学
教科目	歯科臨床概論		
授業形式	講義	単位（時間）	1単位（16時間・8コマ）
開講時期	1年後期	担当	井野 章・佐藤裕向・専任教員 実務経験者
実務経験	あり	井野 章：歯科医師として歯科医療に従事。本校兼任教員、臨床実習歯科医院院長。 佐藤裕向：歯科医師として歯科医療に従事。本校兼任教員、臨床実習歯科医院院長。	
概要			
<p>歯科医療を担う一員となるための理解を深める</p> <p>歯科医学、歯科臨床における歯科衛生士の役割を自覚する</p>			
到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ① 歯科診療の場を理解する ② 歯科診療所を訪れる人とその理由を理解する ③ 歯科診療所における業務を時間的な流れとして理解する ④ 歯科診療所での日常を理解する ⑤ 各ライフステージに関わる歯科臨床および歯科衛生士の関係を理解する 			
授業内容			
【1年後期】			
<ul style="list-style-type: none"> 1) 歯科医療と歯科診療所 ①歯科診療とは 2) ②歯科診療所 3) ③歯科診療所における業務 4) 歯科診療の流れ ①ライフステージと歯科診療 5) ②歯科診療で行う事ー1 6) ②歯科診療で行う事ー2 7) ②歯科診療で行う事ー3 8) 総括 			
医歯薬出版 歯科衛生士のための歯科臨床概論			
<p>評価方法 成績評価の方法・基準は、単位認定規程第5条に記載。</p> <p>定期試験：筆記試験を100点満点とし、60点未満を不合格とし、次の評語で判定する。</p> <p>秀（100点～90点）、優（89点～80点）、良（79点～70点）、可（69点～60点）、不可（59点以下）</p>			

分野	専門（必須）	教育内容	臨床歯科医学
教科目	保存修復学・歯内療法学		
授業形式	講義	単位（時間）	2単位（30時間・15コマ）
開講時期	2年前期	担当	豊田隆雄・松本英治・専任教員 実務経験者
実務経験	あり	豊田隆雄：歯科医師として歯科医療に従事。本校兼任教員、臨床実習歯科医院院長。 松本英治：歯科医師として歯科医療に従事。本校兼任教員、臨床実習歯科医院院長。	
概要			
<p>歯科衛生業務を行うために必要な歯に生じる疾患の種類、症状、診断法および治療法を理解する</p> <p>歯科衛生業務を行うために必要な歯に生じる疾患の種類、症状、診断法および治療法を理解する</p>			
到達目標			
<p>保存① 歯の硬組織疾患の種類と原因、予防法、処置法を説明できる</p> <p>② う蝕治療の流れ、また前準備の概要を説明できる</p> <p>③ 窩洞の構成と名称、分類と窩洞形態の原則を説明できる</p> <p>④ 修復処置に使用する器材の概要を説明できる</p> <p>⑤ 修復法の種類と特徴を説明できる</p> <p>⑥ 歯の偏食の原因と処置法を説明できる</p> <p>⑦ MIDの意義を説明できる</p> <p>⑧ 象牙質知覚過敏症の症状と原因、処置法を説明できる</p> <p>⑨ 修復処置後の不快事項とメンテナンスを説明できる</p> <p>歯内① 歯髄・根尖性歯周組織疾患の分類と症状・検査法を説明できる</p> <p>② 歯髄の保存療法を説明できる</p> <p>③ 歯髄の除去療法を説明できる</p> <p>④ 根尖性歯周組織疾患を説明できる</p> <p>⑤ 根管治療に用いる器材の使用法を説明できる</p> <p>⑥ 根管充填法の処置法を説明できる</p> <p>⑦ 根管知慮に用いる器材の使用法を説明できる</p> <p>⑧ 根管充填法を説明できる</p> <p>⑨ 根未完成歯の処置法を説明できる</p> <p>⑩ 外科的歯内療法の種類・適応症および処置法を説明できる</p> <p>⑪ 外傷歯の治療法を説明できる</p> <p>⑫ 歯内療法における偶発事故とその防止策を説明できる</p>			
授業内容			
【2年前期】			
<p>1) 歯の保存療法の種類 口腔検査</p> <p>2) 保存修復の概要</p> <p>3) 直接法修復</p> <p>4) 間接法修復</p> <p>5) 保存修復における歯科衛生士の役割</p> <p>6) 歯内療法学の概要 歯髄保存療法</p> <p>7) 歯髄の除去療法 根管治療 根管充填</p> <p>8) 外科的歯内療法 歯の外傷</p> <p>9) 歯内療法における安全対策 歯内療法における歯科衛生士の役割</p> <p>10) 総括</p>			
医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 歯の硬組織・歯髄疾患 歯内療法・保存修復			
<p>評価方法 成績評価の方法・基準は、単位認定規程第5条に記載。</p> <p>定期試験：筆記試験を100点満点とし、60点未満を不合格とし、次の評語で判定する。</p> <p>秀（100点～90点）、優（89点～80点）、良（79点～70点）、可（69点～60点）、不可（59点以下）</p>			

分野	専門（必須）	教育内容	臨床歯科医学
教科目	歯周療法学		
授業形式	講義	単位（時間）	2単位（30時間・15コマ）
開講時期	2年前期	担当	専任教員 実務経験者
実務経験	あり	歯科衛生士として歯科医療に従事。現在、本校専任教員	
概要			
<p>歯科衛生業務を行うために必要な歯周組織に生じる疾患の種類、症状、診断法および治療法を理解する</p>			
到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ① 歯周病の種類と症状を説明できる ② 歯周治療の流れを説明できる ③ 歯周病の検査法と検査結果を説明できる ④ 歯周初期治療の術式と適応症を説明できる ⑤ 歯周外科治療の種類と適応症を説明できる ⑥ 歯周外科手術の解除の概要を説明できる ⑦ 口腔機能回復治療の概要を説明できる ⑧ 歯周治療後の再評価ができる ⑨ 歯周治療後のメンテナンスを説明できる 			
授業内容			
【2年前期】			
<ul style="list-style-type: none"> 1) 歯周治療の基礎知識 <ul style="list-style-type: none"> 1. 歯周治療とは 2. 正常な歯周組織の構造と機能 2) <ul style="list-style-type: none"> 2. 正常な歯周組織の構造と機能 3) <ul style="list-style-type: none"> 3. 歯周病の分類と原因 4) <ul style="list-style-type: none"> 3. 歯周病の分類と原因 5) <ul style="list-style-type: none"> 3. 歯周病の分類と原因 6) 歯周治療の実際 <ul style="list-style-type: none"> 1. 歯周治療の進め方 2. 歯周病の検査 7) <ul style="list-style-type: none"> 3. 歯周基本治療 8) <ul style="list-style-type: none"> 3. 歯周基本治療 9) <ul style="list-style-type: none"> 4. 歯周外科治療 10) <ul style="list-style-type: none"> 4. 歯周外科治療 11) <ul style="list-style-type: none"> 4. 歯周外科治療 12) <ul style="list-style-type: none"> 5. 歯周治療としての口腔機能回復 13) 歯周治療における歯科衛生士の業務 14) 歯周治療における歯科衛生士の業務 15) 総括 			
医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 歯周病学			
<p>評価方法 成績評価の方法・基準は、単位認定規程第5条に記載。</p> <p>定期試験：筆記試験を100点満点とし、60点未満を不合格とし、次の評語で判定する。</p> <p>秀（100点～90点）、優（89点～80点）、良（79点～70点）、可（69点～60点）、不可（59点以下）</p>			

分野	専門（必須）	教育内容	臨床歯科医学
教科目	歯科補綴学		
授業形式	講義	単位(時間)	2単位（30時間・15コマ）
開講時期	2年後期	担当	赤川安正・溝部秀邦 実務経験者
実務経験	あり	赤川安正：歯科医師として歯科医療。広島大学名誉教授 歯学博士	
概要			
歯科衛生業務を行うために必要な歯質欠損に対する歯冠修復と歯列の一部、あるいは全部の歯の欠損に対する咬合回復の治療法を理解する			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> ① 歯および歯列の形態と位置的関係、顎口腔系の機能、咬合を説明できる ② 補綴装置の種類と適応を説明できる ③ 次第装置とポンティックの選択、特徴および製法を概説できる ④ 有床義歯の支持装置、把持装置および維持装置を説明できる ⑤ 補綴治療に用いられる器材を説明できる ⑥ 補綴治療の臨床ステップおよび技工操作を概説できる ⑦ 補綴装置製作のための咬合採得に用いる材料と取り扱い方を説明できる ⑧ 咬合採得する下顎位と咬合採得法を概説できる ⑨ 義歯の調整、リライニング、リベースおよび修理を概説できる ⑩ 補綴処置後におけるメンテナンスの重要性を説明できる ⑪ ブリッジの特徴・構成を説明できる ⑫ プロビジョナルレストレーションの概要を説明できる ⑬ インプラントの特徴を説明できる 			
授業内容			
【2年後期】			
<ol style="list-style-type: none"> 1) 補綴歯科治療の基礎知識 2) 歯科補綴の概要 3) 補綴歯科治療の基礎知識 4) 補綴歯科治療における検査 5) クラウン・ブリッジ治療 6) CAD/CAMクラウン・ブリッジ治療の概要 7) 有床義歯治療 8) 装着後の調整（使用開始して次回来院以降の調整） 9) 部分床義歯の概要 10) 部分床義歯治療の流れと診療の補助 11) インプラント治療 12) インプラント治療の流れと診療の補助 13) 特殊な口腔内装置を用いる治療 14) まとめ 15) 確認試験 			
医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 咀嚼障害・咬合異常1 歯科補綴			
評価方法 成績評価の方法・基準は、単位認定規程第5条に記載。 定期試験 ：筆記試験を100点満点とし、60点未満を不合格とし、次の評語で判定する。 秀（100点～90点）、優（89点～80点）、良（79点～70点）、 可（69点～60点）、不可（59点以下）			

分野	専門（必須）	教育内容	臨床歯科医学
教科目	歯科矯正学		
授業形式	講義	単位（時間）	2単位（30時間・15コマ）
開講時期	2年前期	担当	兼子宏一・専任教員 実務経験者
実務経験	あり	兼子宏一：歯科医師として歯科医療に従事。本校兼任教員、歯科医院院長。 専任教員：歯科衛生士として歯科医療に従事。現在、本校専任教員。	

概要

歯科衛生業務を行うために必要な不正咬合の症状および治療法を理解する

到達目標

- ① 顔面及び歯・歯列の成長発育とその評価を説明できる
- ② 成長発育に伴う性状咬合を説明できる
- ③ 不正咬合の原因と種類を列挙できる
- ④ 不正咬合による障害と矯正治療の目的を説明できる
- ⑤ 強制力と歯の移動時の生体反応を説明できる
- ⑥ 矯正装置の種類、構造および機能を説明できる
- ⑦ 矯正治療に用いる器材とその取り扱いを説明できる
- ⑧ 矯正治療前、治療中および保定期間における口腔健康管理法を説明できる

授業内容

【2年前期】

- | | |
|------------------------|-----------------------|
| 1) 矯正歯科治療に関する基礎知識 | 1. 矯正歯科治療の概要 |
| 2) | 2. 成長発育 3. 正常咬合と不正咬合 |
| 3) | 4. 矯正歯科診断 5. 矯正歯科治療と力 |
| 4) | 6. 矯正装置－1 |
| 5) | 6. 矯正装置－2 |
| 6) 矯正歯科治療の実際 | 1. 上下額の前後的關係の不調和 |
| | 2. 上下額の垂直的關係の不調和 |
| | 3. 成人矯正 |
| 7) | 4. 口腔顎顔面の形成異常と変形 |
| 8) | 5. 歯の埋伏と歯数の異常 |
| 9) | 6. 矯正治療時のトラブルへの対応 |
| 10) | 7. 健康保険が適用される矯正歯科治療 |
| 11) 矯正歯科臨床における歯科衛生士の役割 | 1. 業務 |
| 12) | 2. 口腔保健管理 |
| 13) | 3. 口腔筋機能療法 |
| 14) | 4. 器材、資料、文書の管理 |
| 15) 総括 | |

評価方法 成績評価の方法・基準は、単位認定規程第5条に記載。

定期試験：筆記試験を100点満点とし、60点未満を不合格とし、次の評語で判定する。

- 秀（100点～90点）、優（89点～80点）、良（79点～70点）、
可（69点～60点）、不可（59点以下）

分野	専門（必須）	教育内容	臨床歯科医学
教科目	口腔外科学		
授業形式	講義	単位（時間）	2単位（30時間・15コマ）
開講時期	2年前期	担当	末吉
実務経験	なし	歯科医師として歯科医療に従事。本校兼任教員。	
概要			
<p>歯科衛生業務を行うために必要な顎・口腔領域に報じる各種疾患の特徴と症状、診断法および治療法を理解する</p> <p>歯科衛生士業務を行うために必要な全身管理、局所麻酔、精神鎮静法および全身麻酔を理解する</p>			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> ① 顎・口腔領域に生じる各種疾患を分類できる ② 先天異常と発育異常の症状と治療法を概説できる ③ 歯の外傷、歯槽骨骨折、顎骨骨折および軟組織損傷の症状と治療法を概説できる ④ 各種口腔粘膜疾患の種類と症状および治療法を概説できる ⑤ 歯槽部、顎骨および周囲組織の塩飽の原因、感染経路と症状および治療法を概説できる ⑥ 顎骨および口腔軟組織に発生する嚢胞の種類と症状及び治療法を概説できる ⑦ 顎・口腔領域の良性腫瘍、悪性腫瘍、腫瘍類似疾患の種類と症状および治療法を概説できる ⑧ 顎関節疾患、唾液腺疾患の症状と治療法を概説できる ⑨ 顎・口腔領域の神経疾患の症状を概説できる ⑩ 口腔に上場をきたす血液疾患の特徴を概説できる ⑪ 抜歯・口腔外科小手術の手順を説明できる ⑫ 抜歯の適応と禁忌を概説できる ⑬ 抜歯・口腔外科小手術の術中・術後の局所的偶発症および術後の注意を説明できる ⑭ 顎口腔領域の周術期の口腔衛生管理を説明できる ⑮ 麻酔の目的を説明できる ⑯ バイタルサイン、経皮的動脈血酸素飽和度を説明できる ⑰ 各種局所麻酔法と施術時の注意点を説明できる ⑱ 歯科治療中の全員の偶発症とその対応を説明できる ⑲ 精神鎮静法、全身麻酔の適応症と種類を説明できる 			
授業内容			
【2年前期】			
1)	顎・口腔粘膜疾患と口腔外科	1. 概要	2. 先天異常と発育異常
2)		3. 顎・口腔領域の損傷および機能障害	
3)		4. 口腔粘膜の病変	
4)		5. 化膿性炎症疾患	
5)		6. 嚢胞性疾患	
6)		7. 腫瘍及び腫瘍類似疾患	
		8. 唾液腺疾患	
7)		9. 口腔領域の神経疾患	
8)		10. 口腔外科診療の実際	
9)	歯科治療と歯科麻酔	1. 歯科麻酔と患者管理	
10)		2. 局所麻酔	
11)		3. 精神鎮静法	
12)		4. 全身麻酔	5. 救急蘇生法
13)	歯科衛生士のかかわり	業務一	
14)		業務二	
15)	総括		
医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 顎・口腔粘膜疾患 口腔外科・歯科麻酔			
評価方法 成績評価の方法・基準は、単位認定規程第5条に記載。			
定期試験：筆記試験を100点満点とし、60点未満を不合格とし、次の評語で判定する。			
秀（100点～90点）、優（89点～80点）、良（79点～70点）、可（69点～60点）、不可（59点以下）			

分野	専門（必須）	教育内容	臨床歯科医学
教科目	小児歯科学		
授業形式	講義	単位(時間)	2単位（30時間・15コマ）
開講時期	1年後期	担当	西田 郁子 実務経験者
実務経験	あり	歯科医師として九州歯科大学勤務。現在、本校兼任教員	
概要			
歯科衛生業務を行うために必要な小児の身体的・心理的特徴と小児の歯科治療を理解する			
到達目標			
① 小児の正常な身体的成長発育とその障害を説明できる			
② 成人歯科と小児歯科の違いを説明できる			
③ 各年齢における小児の正常な心理的発達とその障害を説明できる			
④ 小児の先天性疾患を説明できる			
⑤ 歯列および咬合の正常発育とその障害を説明できる			
⑥ 乳歯と幼若永久歯の解剖学的特徴を説明できる			
⑦ 小児う蝕の特徴、う蝕予防および進行抑制法を説明できる			
⑧ 乳歯と幼若永久歯の歯冠修復法ならびに歯内療法を説明できる			
⑨ 小児の口腔外科的疾患を説明できる			
⑩ 小児の歯の外傷の種類と処置法を説明できる			
⑪ 咬合誘導の概念ならびに保劇装置の種類、適応症および留意点を説明できる			
授業内容			
【1年後期】			
1)	小児歯科診療の基礎知識	1.	小児歯科学概論
2)		2.	心身の発育
3)		3.	心理的特徴
4)		4.	顔面頭蓋の発育
5)		5.	歯の発育とその異常
6)		6.	歯列・咬合の発育と異常
7)		7.	小児の歯科疾患
8)	小児歯科診療	1.	小児期の特徴と歯科的問題点
9)		2.	小児歯科における患者との対応法－1
10)		2.	小児歯科における患者との対応法－2
11)		3.	小児歯科における診療体系－1
12)		3.	小児歯科における診療体系－2
13)		4.	障害児の歯科治療
14)	小児歯科診療における歯科衛生士の役割		
15)	総括		
医歯薬出版 最新歯科衛生士教本 小児歯科			
評価方法 成績評価の方法・基準は、単位認定規程第5条に記載。			
定期試験：筆記試験を100点満点とし、60点未満を不合格とし、次の評語で判定する。			
秀（100点～90点）、優（89点～80点）、良（79点～70点）、			
可（69点～60点）、不可（59点以下）			

分野	専門（必須）	教育内容	臨床歯科医学
教科目	高齢者歯科・障害者歯科		
授業形式	講義	単位(時間)	1単位（20時間・10コマ）
開講時期	1年後期	担当	塚本 末廣 実務経験者
実務経験	あり	歯科医師として歯科医療従事。本校兼任教員。歯科医院院長。	
概要			
<p>歯科衛生業務を行うために必要な障害者児の身体的・心理的特徴と歯科治療ならびに高齢者の身体的・心理的特徴と歯科治療を理解する</p>			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> ① 障害の概念が説明できる ② 障害の種類・歯科的特徴および歯科保健医療の留意点を説明できる ③ 障害児者の歯科治療を説明できる ④ 障害児者歯科における医療安全を説明できる ⑤ 障害児者の保護・医療・福祉制度を説明できる ⑥ 障害児者の摂食嚥下障害とリハビリテーションを説明できる ⑦ 全身及び口腔の加齢と老化を説明できる ⑧ 人口の超高齢化による社会環境の変化を説明できる ⑨ 高齢者の全身疾患と口腔疾患の特徴を説明できる ⑩ 高齢者の歯科治療時における介助と安全管理を説明できる ⑪ 高齢者の口腔健康管理を説明できる ⑫ 歯科訪問診療の意義と目的を説明できる ⑬ 高齢者の摂食嚥下障害の原因と症状を説明できる ⑭ 高齢者の摂食嚥下リハビリテーションを説明できる ⑮ 高齢者のための社会保障と医療・保健・福祉を説明できる ⑯ サルコペニアとフレイルを説明できる ⑰ 高齢者の終末期ケアを説明できる ⑱ 高齢者の誤嚥性肺炎の原因と口腔健康管理を説明できる 			
授業内容			
【1年後期】			
<ol style="list-style-type: none"> 1) 1. 障害の概念 2. 歯科医療で特別な支援が必要な疾患 2) 2. 障害者の歯科医療と行動調整 4. 健康支援と口腔管理 3) 5. リスク評価と安全管理 6. 摂食嚥下リハビリテーションと歯科衛生士の役割 4) 7. 地域における障害者歯科 8. 障害者歯科における歯科衛生過程 5) 1. 高齢者を取り巻く社会と環境 2. 加齢による身体的・精神的変化と疾患 6) 3. 高齢者の状態の把握 4. 口腔のケア 7) 5. 摂食嚥下リハビリテーション 8) 6. 高齢者に関わる医療と介護 9) 7. 高齢者歯科における歯科衛生過程 10) 総括 			
医歯薬出版 最新歯科衛生士教本 障害者歯科			
医歯薬出版 最新歯科衛生士教本 高齢者歯科			
<p>評価方法 成績評価の方法・基準は、単位認定規程第5条に記載。</p> <p>定期試験：筆記試験を100点満点とし、60点未満を不合格とし、次の評語で判定する。</p> <p>秀（100点～90点）、優（89点～80点）、良（79点～70点）、可（69点～60点）、不可（59点以下）</p>			

分野	専門（必須）	教育内容	臨床歯科医学
教科目	歯科放射線学		
授業形式	講義	単位(時間)	1単位（16時間・8コマ）
開講時期	2年前期	担当	大庭 健 実務経験者
実務経験	あり	歯科医師。九州歯科大学名誉教授。本校兼任教員。	
概要			
患者の全身的健康状態や全身疾患を把握するための医療情報、歯科疾患の診断および歯科衛生業務の実施に必要な画像検査の意義を理解する			
到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ① 放射線の生物学的撮影を理解し、放射線防護を概説できる ② エックス線画像の形成原理を概説できる ③ 頭部エックス線撮影の種類と適応を概説できる ④ 口内法ならびにパノラマエックス線写真のエックス線解剖の概要を表記できる ⑤ う蝕と歯周病および顎骨に生じる病変のエックス線所見を概説できる ⑥ 超音波検査、CTおよびMRIの原理と特徴を概説できる ⑦ 嚥下造影検査、嚥下内視鏡検査を概説できる 			
授業内容			
【2年前期】			
<ul style="list-style-type: none"> 1) 歯科医療と放射線 2) エックス線画像の形成 3) 歯科におけるエックス線検査 4) 口内法エックス線撮影の実際と歯科衛生士の役割 5) パノラマエックス線撮影の実際と歯科衛生士の役割 6) 写真処理と画像保管の実際 7) 放射線治療と口腔管理 8) 総括 			
医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 歯科放射線			
評価方法 成績評価の方法・基準は、単位認定規程第5条に記載。 定期試験 ：筆記試験を100点満点とし、60点未満を不合格とし、次の評語で判定する。 秀（100点～90点）、優（89点～80点）、良（79点～70点）、 可（69点～60点）、不可（59点以下）			

分野	専門分野（必須）	教育内容	歯科予防処置論
教科目	歯科予防処置		
授業形式	講義・演習・実習	単位(時間)	9単位（228時間）
開講時期	1～3年前期・後期	担当	専任教員 実務経験者
実務経験	あり	歯科衛生士として歯科医療に従事。現在、本校専任教員	

概要

口腔疾患を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために、専門的な知識技術および態度を習得する

歯科予防処置について専門知識と技術、および態度を習得する目的と意義を理解する

歯周病を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために専門的な知識、技術、および態度を理解する

う蝕を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために、専門的な知識、技術、および態度を理解する

到達目標

総論

- ① 歯科予防処置の概念と内容を概説できる
- ② 歯科予防処置の法的位置づけと範囲、業務を概説できる
- ③ 歯周病予防、う蝕予防を概説できる
- ④ 実施する際に把握すべき対象者の情報を説明できる
- ⑤ 正常な歯・歯周組織と口腔の機能を説明できる
- ⑥ 歯・口腔の健康状態を把握するための項目を列挙できる
- ⑦ デンタルプラークの形成過程と成分を説明できる
- ⑧ 歯石の形成過程と成分を説明できる
- ⑨ う蝕の原因と進行、予防方法を説明できる
- ⑩ 歯周病の原因と分類、進行及び予防方法を説明できる

歯周病予防処置

- ① 歯周病と生活習慣、全身疾患との関連を説明できる
- ② 対象者の歯周病リスクの評価方法を説明できる
- ③ プローブの種類と操作方法を説明できる
- ④ 歯周病に関連する指標を説明できる
- ⑤ 歯・歯肉・口腔の検査ができる
- ⑥ 診査の結果を説明できる
- ⑦ 対象者の情報を分析し、歯周病予防計画を立案できる
- ⑧ スケーラーの種類と使用目的を説明できる
- ⑨ シックルタイプスケーラーを操作できる
- ⑩ キュレットタイプスケーラーを操作できる
- ⑪ 超音波スケーラー、エアースケーラーを操作できる
- ⑫ シャーピングができる
- ⑬ 歯面清掃・歯面研磨の意義を説明できる
- ⑭ 歯面清掃器材の種類と使用方法を説明できる
- ⑮ 歯面研磨剤の種類と用途を説明できる
- ⑯ 歯面清掃、歯面研磨ができる
- ⑰ SPTの目的を説明できる
- ⑱ SPTの処置内容を説明できる
- ⑲ SPT実施時の注意点を説明できる
- ⑳ 歯周病におけるメンテナンスの目的を説明できる
- ㉑ メンテナンス時の評価項目と方法、処置を説明できる

②② 歯周病のリスクとメンテナンスの必要性を説明できる

う蝕予防処置

- ① う蝕予防処置に関連する生活習慣の把握方法と項目を説明できる
- ② う蝕と全身疾患の関連を説明できる
- ③ う蝕予防処置の臨床的効果、作用機序、安全性及び便宜性を説明できる
- ④ う蝕リスク判断のために行う、う蝕活動性試験の目的と種類を説明できる
- ⑤ う蝕活動性試験のを実施できる
- ⑥ 対象者のう蝕活動性を評価し、う蝕予防プログラムを立案できる
- ⑦ フッ化物歯面塗布法に使用する薬剤の種類、濃度、取り扱いを説明できる
- ⑧ フッ化物歯面塗布の適応歯を説明できる
- ⑨ フッ化物歯面塗布の術式を説明できる
- ⑩ フッ化物歯面塗布法を実施できる
- ⑪ フッ化物歯面塗布実施上の注意点を説明できる
- ⑫ フッ化物洗口法の使用薬剤の種類、濃度、取り扱いを説明できる
- ⑬ 対象年齢と洗口方法を説明できる
- ⑭ フッ化物洗口法実施上の注意点を説明できる
- ⑮ フッ化物配合歯磨剤の配合フッ化物の種類と特徴を説明できる
- ⑯ 年齢に応じた使用量を説明できる
- ⑰ フッ化物配合歯磨剤の使用法を説明できる
- ⑱ 小窩裂溝充填塞材の種類と特徴を説明できる
- ⑲ 小窩裂溝充填塞の適応歯を説明できる
- ⑳ 小窩裂溝充填塞の術式を説明できる
- ㉑ 小窩裂溝充填塞を実施できる
- ㉒ 小窩裂溝充填塞実施上の注意点を説明できる
- ㉓ う蝕予防処置におけるメンテナンスの目的を説明できる
- ㉔ メンテナンス時の評価項目と方法、処置を説明できる
- ㉕ う蝕のリスクとメンテナンスの必要性を説明できる

授業内容

【1年前期】

講義

- 1) 歯科予防処置の概念 1
- 2) 歯科予防処置の概念 2
- 3) 口腔の基礎知識 1
- 4) 口腔の基礎知識 2
- 5) う蝕の基礎知識 1
- 6) う蝕の基礎知識 2
- 7) う蝕の基礎知識 3
- 8) 総括

演習・実習

- 1) 口腔内診査 1
- 2) 口腔内診査 2
- 3) スケーリング 手用スケーラー 1
- 4) スケーリング 手用スケーラー 2
- 5) スケーリング 手用スケーラー 3
- 6) スケーリング 手用スケーラー 4
- 7) スケーリング 基礎実習 1
- 8) スケーリング 基礎実習 2

- 9) スケーリング 基礎実習 3
- 10) 総括

【1年後期】

演習・実習

- 11) う蝕活動性試験 1
- 12) う蝕活動性試験 2
- 13) フッ化物塗布 1
- 14) フッ化物塗布 2
- 15) 小窩裂溝填塞法 1
- 16) 小窩裂溝填塞法 2
- 17) 小窩裂溝填塞法 3
- 18) カリエスリスクテスト 1
- 19) カリエスリスクテスト 2
- 20) スケーリング 相互実習-1 シックルタイプ
- 21) スケーリング 相互実習-2 シックルタイプ
- 22) スケーリング 相互実習-3 シックルタイプ
- 23) スケーリング 相互実習-4 シックルタイプ
- 24) スケーリング 相互実習-1 キュレットタイプ
- 25) スケーリング 相互実習-2 キュレットタイプ
- 26) スケーリング 相互実習-3 キュレットタイプ
- 27) スケーリング 相互実習-4 キュレットタイプ
- 28) スケーリング 相互実習-5 キュレットタイプ
- 29) スケーリング 相互実習-6 キュレットタイプ
- 30) 総括

【2年前期】

講義

- 1) 歯周病の基礎知識 1
- 2) 歯周病の基礎知識 2
- 3) 歯面清掃・歯面研磨 1
- 4) 歯面清掃・歯面研磨 2
- 5) パワースケーラー 1
- 6) パワースケーラー 2
- 7) パワースケーラー 3
- 8) 総括

演習・実習

- 1) 歯面清掃・歯面研磨 1
- 2) 歯面清掃・歯面研磨 2
- 3) 歯面清掃・歯面研磨 3
- 4) 歯面清掃・歯面研磨 4
- 5) 歯面清掃・歯面研磨 5
- 6) 歯面清掃・歯面研磨 6
- 7) パワースケーラー 1
- 8) パワースケーラー 2
- 9) パワースケーラー 3
- 10) パワースケーラー 4
- 11) パワースケーラー 5

- 12) パワースケラー 6
- 13) 相互実習 1
- 14) 相互実習 2
- 15) 相互実習 3
- 16) 相互実習 4
- 17) 相互実習 5
- 18) 相互実習 6
- 19) 総括

【2年後期】

- 20)
- 21) 2. 相互実習－5 エアー・超音波
- 22) 2. 相互実習－6 エアー・超音波
- 23) P T C 1. 概要、術式、取り扱い
- 24) 2. 相互実習－1
- 25) 2. 相互実習－2
- 26) 2. 相互実習－3
- 27) 2. 相互実習－4
- 28) P M T C 1. 概要、術式、取り扱い
- 29) 2. 相互実習－1
- 30) 2. 相互実習－2
- 31) 2. 相互実習－3
- 32) 2. 相互実習－4
- 33) 相互実習 総合実習 1

- 34) 総合実習 2
- 35) 総合実習 3
- 36) 総合実習 4
- 37) 総合実習 5
- 38) 総合実習 6
- 39) 総合実習 7
- 40) 総合実習 8
- 41) 総合実習 9
- 42) 総合実習 10
- 43) 総合実習 11
- 44) 総合実習 12
- 45) 総括

【3年前期】

講義

- 1) 事例検討 1. 歯科衛生過程の進め方 1
- 2) 1. 歯科衛生過程の進め方 2
- 3) 2. アセスメント 1
- 4) 2. アセスメント 2
- 5) 3. 計画立案
- 6) 総括

演習・実習

- 1) 1. 歯科衛生過程の進め方一演習 1
- 2) 1. 歯科衛生過程の進め方一演習 2
- 3) 2. アセスメント一演習 1
- 4) 2. アセスメント一演習 2
- 5) 3. 計画立案一演習 1
- 6) 3. 計画立案一演習 2

【3年後期】

講義

- 7) 4. 実施後の評価 1
- 8) 4. 実施後の評価 2

演習・実習

- 1) 4. 実施後の評価一演習 1
- 2) 4. 実施後の評価一演習 2
- 3) 総合実習
- 4) 総合実習
- 5) 総合実習
- 6) 総合実習
- 7) 総合実習
- 8) 総合実習
- 9) 総括

医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論

評価方法

成績評価の基準として、単位認定規程第5条に記載

定期試験：筆記試験を100点満点として評価する（60点以上 合格）

実技試験：履修項目の到達度について実施。各100点満点を項目数で平均する（合格60点以上）

総合評価：筆記試験と実技試験の点数を平均し科目の評価点とする（合格60点以上）

分野	専門分野（必須）	教育内容	歯科保健指導論
教科目	歯科保健指導		
授業形式	講義・演習・実習	単位（時間）	6単位（128時間）
開講時期	1～3年前期・後期	担当	専任教員 実務経験者
実務経験	あり	歯科衛生士として歯科医療に従事。現在、本校専任教員	

概要

健康と疾病の概念を理解し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進するために、プロフェッショナルケア・セルフケア・コミュニティケアの基本となる地域、技術および態度を習得する
 歯科保険移動についての基礎学問的な領域を理解し、歯科保健指導に応用するために、大砲者の情報を評価し、歯科衛生診断結果をもとに歯科衛生介入のためのプログラムを計画立案する一連の方法を学ぶ
 歯科保健指導の遂行に必要な、対象者の情報について収集する方法を習得する
 口腔衛生管理を行うために必要な技能、技術および態度を習得する
 生活習慣業の予防に応じた保健指導を行うために専門的知識、技術および態度を習得する
 ライフステージと機能障害に応じた食生活指導を行うために、専門的知識、技術および態度を習得する
 口腔機能低下と口腔機能障害に応じた機能向上に向けて、口腔機能管理と指導を行うために専門的知識、技術および態度を習得する
 健康教育活動の場で指導するために、必要な専門知識、技術および態度を習得する

到達目標

総論

- ① 歯科保健指導の意義と特性を説明できる
- ② 歯科保健指導を個人と集団に分けて説明できる
- ③ 歯科保健指導のマネジメントサイクルを理解し、全体像を説明できる
- ④ 歯科保険移動における書面化の意義を説明できる
- ⑤ 歯科保険移動に関わる理論と行動変容を説明できる
- ⑥ カウンセリングの基本を説明できる
- ⑦ 保健行動と行動変容の手法を理解し、活用できる
- ⑧ ハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチを説明できる

情報収集

- ① 全身的な健康状態を把握できる
- ② 認知状態・精神状態を把握できる
- ③ 虐待の種類を説明できる
- ④ 服薬の把握ができる
- ⑤ ストレスの評価ができる
- ⑥ 対象者の生活習慣と異常の観察と評価ができる
- ⑦ 対象者の日常生活動作を把握できる
- ⑧ 歯・口腔の疾患と異常の観察と評価ができる
- ⑨ 口腔清掃状態の指標を基に検査できる
- ⑩ 口腔機能のスクリーニングテストができる
- ⑪ 虐待の歯科的特徴を説明できる
- ⑫ 問診票を説明できる
- ⑬ 対象者に応じたコミュニケーションがとれる

口腔衛生管理

- ① 口腔衛生管理を行うための歯科衛生介入計画を立案できる
- ② 口腔衛生管理に関する清掃用具を説明できる
- ③ 歯磨剤・洗口剤・保湿剤の特徴を説明できる
- ④ 口腔衛生状態を説明できる
- ⑤ 口腔清掃方法の選択と指導ができる
- ⑥ 歯ブラシや各種清掃用具の選択と使用法の指導ができる
- ⑦ 舌・口腔粘膜の清掃用具の選択と使用法の指導ができる
- ⑧ 歯磨剤・洗口剤・保湿剤の選択と使用法の指導ができる
- ⑨ う蝕のリスクに応じた口腔衛生指導ができる
- ⑩ 歯周病のリスクに応じた口腔衛生指導ができる
- ⑪ 不正咬合に応じた口腔衛生指導ができる
- ⑫ 義歯装着に応じた口腔衛生指導ができる
- ⑬ 口臭に関する指導ができる

- ⑭ 口腔乾燥に関する指導ができる
- ⑮ 各ライフステージ別の一般的特徴と口腔の特徴および歯科保健行動を説明できる
- ⑯ 各ライフステージ別の口腔衛生指導ができる
- ⑰ 特別配慮を要する妊産婦・全身疾患患者・障害児者・要介護者・大規模災害被災者に対する口腔衛生指導ができる

生活習慣指導

- ① 口腔保健と生活習慣の関係を説明できる
- ② 非感染性疾患の種類と特徴および口腔との関連を説明できる
- ③ 対象者の生活習慣の把握ができる
- ④ 非感染性疾患を有する対象者の指導ができる
- ⑤ 対象者のストレスマネジメントができる
- ⑥ 非感染性疾患の症例に合わせた歯科保健指導ができる
- ⑦ 対象者の疾患・異常のリスクに応じた生活習慣指導ができる
- ⑧ 配慮を要する対象者の生活習慣指導ができる
- ⑨ 禁煙指導と支援ができる

食生活指導

- ① 食生活・食習慣の背景を説明できる
- ② 健康を維持するための栄養情報を説明できる
- ③ 食品とう蝕の関連性を説明できる
- ④ 食品と歯科疾患の関連性を説明できる
- ⑤ う蝕予防のための食品摂取方法を説明できる
- ⑥ 咀嚼の働きを説明できる
- ⑦ 栄養・食生活による歯・口腔の成長と発育の関連性を説明できる
- ⑧ 栄養状態を把握し問題点を評価できる
- ⑨ 食支援のための介入計画が立案できる
- ⑩ 食支援に必要な歯科衛生介入ができる
- ⑪ 食生活改善の取り組みとして口腔衛生と口腔機能の関連が説明できる
- ⑫ 食生活指導について書面化できる
- ⑬ 各ライフステージ別の食生活指導ができる
- ⑭ 生活習慣病に応じた食生活指導ができる
- ⑮ 障害児者・要介護者の食事介助の指導ができる
- ⑯ 摂食嚥下機能に応じた食事形態の説明ができる
- ⑰ 人体の加齢と老化に伴う形態的および機能的な変化を概説できる
- ⑱ 口腔機能リハビリテーションを概説できる
- ⑲ 口腔機能低下に伴う全身疾患の種類と治療の概要を説明できる
- ⑳ チーム医療に関わる関連職種と歯科衛生士との連携のあり方を説明できる
- ㉑ 口腔機能の現状を把握するための評価ができる
- ㉒ 対象者の摂食嚥下状態の評価・検査ができる
- ㉓ 対象者の歯科知慮の要否を概説できる
- ㉔ 口腔期の訓練ができる
- ㉕ 食事指導・支援や摂食介助ができる
- ㉖ 嚥下障害・構音障害への対応が概説できる
- ㉗ 各ライフステージ別の口腔機能管理と指導ができる
- ㉘ 配慮を要する人への口腔機能管理と指導ができる

健康教育活動

- ① 健康教育の対象と場の特徴を説明できる
- ② 健康教育に必要な情報を収集できる
- ③ 健康教育の計画立案ができる
- ④ 健康教育の内容を説明できる
- ⑤ 健康教育活動の工夫と留意点を説明できる
- ⑥ 健康教育活動の方法を説明できる
- ⑦ 健康教育活動の評価を説明できる
- ⑧ 集団・組織・地域の実態が把握できる
- ⑨ 対象者の特性とニーズの把握ができる
- ⑩ 地域歯科保健事業における歯科衛生士の役割を説明できる
- ⑪ 地域歯科保健事業における健康教育ができる
- ⑫ 保育所・幼稚園の口腔保健の実態が把握できる
- ⑬ 保育所・幼稚園を対象とした健康教育ができる
- ⑭ 保育所、幼稚園の保育士、教員及び保護者を対象とした健康教育ができる
- ⑮ 小学校・中学校・高校の口腔保健の実態が把握できる

- ⑳ 小学校・中学校・高校を対象とした健康教育ができる
- ㉑ 小学校・中学校・高校の教員及び保護者を対象とした健康教育ができる
- ㉒ 事業所の口腔保健の実態が把握できる
- ㉓ 事業所の従業員・衛生管理者を対象とした健康教育ができる
- ㉔ 要介護者の家族・介護者・施設職員を対象とした健康教育ができる

授業内容

【1年前期】

講義

- 1) 歯科保健指導の概要
- 2) 口腔の基礎知識
- 3) 食生活指導のための基礎知識-1
- 4) 食生活指導のための基礎知識-2
- 5) 保健行動支援のための基礎知識
- 6) 歯科衛生過程の進め方
- 7) 歯科衛生介入としての歯科保健指導
- 8) 総括

実習

- 1) 口腔清掃用具の種類と選択
- 2) 化学的清掃剤の種類と選択
- 3) 全体的な健康状態の把握・口腔の観察
- 4) 口腔の清掃状態の観察
- 5) 口腔清掃法-1
- 6) 口腔清掃法-2
- 7) 義歯の清掃と保管管理
- 8) 歯科衛生過程の進め方-2
- 9) 歯科衛生過程の進め方-3
- 10) 歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理-1
- 11) 歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理-2, 総括

【1年後期】

実習

- 12) 歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理-3
- 13) 歯科衛生介入としての歯科保健指導-2
- 14) 歯科衛生介入としての歯科保健指導-3
- 15) 総括

【2年前期】

講義

- 1) 歯科保健に関する調査 ①調査の種類
- 2) 伝達法 ②質問調査票・コミュニケーション能力・対話法
- 3) 歯科衛生士業務記録 ①基礎情報をアセスメント
- 4) ②指導計画・経過観察
- 5) ③評価・報告
- 6) ライフステージ別指導の要点 ①妊産婦 ②乳児期 ③幼児期
- 7) ④学齢期 ⑤青年期 ⑥成人期 ⑦老年期
- 8) 総括

実習

- 1) 歯科保健に関する調査 伝達法 歯科衛生士業務記録
- 2) ライフステージ別指導
- 3) 衛生教育準備 1
- 4) 衛生教育準備 2
- 5) 衛生教育準備 3
- 6) 衛生教育準備 4
- 7) 衛生教育準備 5
- 8) ②歯科保健教育 1
- 9) ②歯科保健教育 2
- 10) ②歯科保健教育 3
- 11) ②歯科保健教育 4

【2年後期】

演習・実習

- 1 2) 相互実習 情報収集1
- 1 3) 情報収集2
- 1 4) 情報収集3
- 1 5) 総括

【3年前期】

講義

- 1) 食事指導法の基礎知識 ①食生活指針・食事バランスガイド
- 2) ②う蝕誘発性を持つ食品
- 3) ③栄養と歯科保健の関係
- 4) ④咀嚼と食品の性状
- 5) ⑤摂食・嚥下
- 6) 介護・社会福祉の現場における活動の基礎知識
- 7) 口腔機能訓練の基礎知識
- 8) 総括

実習

- 1) 相互実習 情報収集1
- 2) 情報収集2
- 3) 口腔清掃1
- 4) 口腔清掃2
- 5) 口腔清掃3
- 6) 食生活習慣1
- 7) 食生活習慣2

【3年後期】

演習・実習

- 8) 口腔機能訓練-1
- 9) 口腔機能訓練-2
- 1 0) 口腔ケア実習-1
- 1 1) 口腔ケア実習-2
- 1 2) 総合演習実習1
- 1 3) 総合演習実習2
- 1 4) 総合演習実習3
- 1 5) 総括
- 5 7) 介護・社会福祉施設 ①利用者、入所者の把握
- 5 8) ②口腔ケア
- 5 9) ③食事介助
- 6 0) 後期総括

医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論

評価方法

成績評価の基準として、単位認定規程第5条に記載

定期試験：筆記試験を100点満点として評価する（60点以上 合格）

実技試験：履修項目の到達度について実施。各100点満点を項目数で平均する（合格60点以上）

総合評価：筆記試験と実技試験の点数を平均し科目の評価点とする（合格60点以上）

分野	専門分野（必須）	教育内容	歯科予防処置論
教科目	口腔保健管理		
授業形式	講義	単位（時間）	2単位（30時間・15コマ）
開講時期	2年前期	担当	専任教員 実務経験者
実務経験	あり	歯科衛生士として歯科医療に従事。現在、本校専任教員	
概要			
<p>歯科予防処置、歯科保健指導、歯科診療補助を総合的にとらえ、歯科衛生士が臨床の場において口腔健康管理プログラムを作成し、実践する力を習得する</p>			
到達目標			
<p>① 健康教育について理論的に理解する</p> <p>② 歯科予防の臨床と歯周疾患予防の臨床の基礎知識を理解する</p> <p>③ 病勢阻止のための第2次予防について基礎的知識を理解する</p> <p>④ ライフステージごとの口腔保健管理計画の理論と実際を理解する</p> <p>⑤ 歯周病の継続管理のための口腔観察の方法を列挙できる</p> <p>⑥ ホームケア、プロフェッショナルケア、PMT Cについて説明できる</p> <p>⑦ 業務記録について説明でき、作成できる</p>			
授業内容			
【2年前期】			
<p>1) 口腔疾患予防の臨床 ①口腔保健の意義 ②対象把握と予防管理法</p> <p>2) ③病勢阻止のための継続管理</p> <p>3) 障害を通じた口腔保健管理 ①目的 ②実際</p> <p>4) ③場の理解</p> <p>5) 口腔観察と口腔清掃 ①口腔観察と記録</p> <p>6) ②ホームケアとプロフェッショナルケア</p> <p>7) ③口腔清掃</p> <p>8)</p> <p>9) 業務記録 ①はじめに ②目的と意義 ③種類と形式</p> <p>10) ④記入上の注意 ⑤臨床の場における業務記録</p> <p>11) ⑥訪問歯科保健指導の業務記録</p> <p>12) ⑦地域保健の場における業務記録</p> <p>13) 口腔保健管理の実際 ①ポイント ②学童期の指導</p> <p>14) ③歯周疾患患者の継続指導 ④要介護高齢者の指導</p> <p>15) 総括</p>			
医歯薬出版 最新歯科衛生士教本 口腔保健管理			
<p>評価方法 成績評価の方法・基準は、単位認定規程第5条に記載。</p> <p>定期試験：筆記試験を100点満点とし、60点未満を不合格とし、次の評語で判定する。</p> <p>秀（100点～90点）、優（89点～80点）、良（79点～70点）、可（69点～60点）、不可（59点以下）</p>			

分野	専門分野（必須）	教育内容	歯科診療補助論
教科目	歯科診療補助		
授業形式	講義・演習・実習	単位(時間)	7単位（168時間）
開講時期	1～3年前期・後期	担当	専任教員 実務経験者
実務経験	あり	歯科衛生士として歯科医療に従事。現在、本校専任教員	

概要

さまざまなライフステージにおける歯科医療に対応するために、専門的な歯科医療の補助に関する基礎的知識、技術および態度を習得する。

専門的な歯科診療の補助のために必要な基礎的知識、技術および態度を習得する

内科診療の補助に対応するために、歯科治療で用いられる主要歯科材料の種類、基本的性質および標準的な使用法を習得する

保存治療の補助のために、必要な治療手順、薬剤および器材の使用法を習得する

補綴治療の補助のために、必要な治療手順、薬剤および器材の使用法を習得する

口腔外科治療や歯科麻酔時の補助のために必要な治療手順、薬剤および器材の使用法を習得する

矯正歯科治療の補助のために必要な治療手順、薬剤および器材の使用法を習得する

小児歯科治療の補助のために必要な患者対応および治療手順、薬剤及び器材の使用法を習得する

高齢者歯科治療の補助のために必要な患者対応および治療手順、薬剤及び器材の使用法を習得する

障害児者歯科治療の補助のために必要な患者対応、摂食嚥下の検査および訓練法を習得する

エックス線写真撮影時の補助のために必要な撮影手順、放射線防御の方法を習得する

救急救命処置のために必要なバイタルサインの測定や処置器材の説明を習得する

到達目標

概要

- ① 歯科診療の補助と歯科診療の介助の違いを説明できる
- ② 歯科診療補助における歯科衛生士の役割を列挙できる
- ③ チーム歯科医療の必要性を説明できる
- ④ 歯科訪問診療のための保健・医療・福祉のシステムを概説できる

情報収集

- ① 医療面接で全身及び航空の自覚症状を読み取ることができる
- ② 全身疾患の症状を読み取ることができる
- ③ 生体検査の方法と結果を読み取ることができる
- ④ 血液検査の結果を読み取ることができる
- ⑤ モニター検査の結果を読み取ることができる
- ⑥ 心身の成長・発達の状態を把握できる
- ⑦ 服薬の状態を把握できる
- ⑧ 歯科治療に必要な検査で他覚症状を読み取ることができる

患者への対応

- ① 全身疾患を考慮した対応ができる
- ② 高齢者に配慮した対応ができる
- ③ 妊産婦に配慮した対応ができる
- ④ 通院困難者に配慮した対応ができる
- ⑤ 障害に配慮した対応ができる
- ⑥ 感染に配慮した対応ができる

診療時の共同動作

- ① フォーハンドシステムの基本動作ができる
- ② 診療に応じた器具の受け渡しができる
- ③ 診療に応じたバキューム操作ができる

診療設備の管理

- ① 診療設備が整えられる
- ② エアーコンプレッサーの管理ができる
- ③ 歯科用ユニットの管理ができる
- ④ 口腔外バキュームの管理ができる
- ⑤ エックス線撮影装置の管理ができる
- ⑥ 酸素吸入器の管理ができる
- ⑦ レーザー装置の管理ができる
- ⑧ 薬品、歯科材料の管理ができる

医療安全管理

- ① 感染に応じた対応ができる
- ② スタンダードプリコーションができる
- ③ 医療廃棄物の取り扱いができる
- ④ 偶発事故に適切な対応ができる

消毒・滅菌

- ① 消毒薬、各種滅菌器械、器具の準備ができる
- ② 消毒薬、各種滅菌器械、器具の操作・取り扱いができる
- ③ 消毒薬、各種滅菌器械、器具の管理ができる

模型用材料

- ① 模型用材料の種類と基本的性質を説明できる
- ② 模型用材料の取り扱いができる

合着・接着材・仮着用材料

- ① 合着・接着材・仮着用材料の種類と基本的材料を説明できる
- ② 各種合着・接着材・仮着用材料の取り扱いができる

印象用材料

- ① 印象材の種類と基本的知識を説明できる
- ② 各種印象材を練和できる
- ③ 概形印象の採得ができる

歯冠修復用材料

- ① 歯冠修復材の種類と基本的性質を説明できる
- ② 歯冠修復材の取り扱いができる

仮封用材料

- ① 仮封用材料の種類と基本的性質を説明できる
- ② 仮封用の取り扱いができる

その他の材料

- ① ワックスの基本的性質を説明できる
- ② 義歯用材料の基本的性質を説明できる
- ③ インプラント用材料の使用目的を説明できる

保存治療時の前準備

- ① 防湿法に用いる器具や材料の名称と用途を説明できる
- ② ラバーダム防湿ができる
- ③ 隔壁法に用いる器具の操作ができる
- ④ 歯肉排除法に用いる器具の操作・取り扱いができる
- ⑤ 歯間分離法に用いる器具の操作ができる

窩洞形成

- ① 切削用器械、器具の準備ができる

直接修復

- ① コンポジットレジン修復の手順を説明できる
- ② 歯面処理材料の準備ができる
- ③ コンポジットレジン修復の器具や材料の準備ができる
- ④ グラスアイオノマーセメント修復の手順を説明できる
- ⑤ グラスアイオノマーセメント修復の器材や材料の準備ができる

間接修復

- ① インレー修復の手順を説明できる
- ② インレー修復の準備ができる
- ③ 合着後の余剰セメントの除去ができる

歯の漂白

- ① 漂白法の適応症を説明できる
- ② 漂白法の種類を説明できる
- ③ 漂白法の手順を説明できる
- ④ 漂白法の器材・薬剤の準備ができる
- ⑤ 漂白後の術後指導の内容を説明できる

歯髓処置

- ① 歯髓処置の手順を説明できる
- ② 歯髓処置の薬剤や機材の準備ができる
- ③ 電気歯髓診断器の準備ができる

根管処置

- ① 根管処置の薬剤や器材の準備ができる
- ② 根管長測定器の準備ができる
- ③ 根管充填の薬剤や器材の準備ができる

外科的歯内療法

- ① 外科的歯内療法の器材の準備ができる

歯周外科治療

- ① 歯周外科治療の手順を説明できる
- ② 歯周外科治療の薬剤や器具の準備ができる
- ③ 歯周用パックの取り扱いができる

補綴治療時の検査

- ① 各種検査の手順を説明できる
- ② 各種検査で用いる器材の準備ができる

印象採得

- ① 印象採得の手順を説明できる
- ② 印象採得で用いる器材の操作ができる

咬合採得

- ① 咬合採得の手順を説明できる
- ② 咬合採得で用いる器材の操作ができる
- ③ 咬合床作製の手順を説明できる
- ④ 咬合床用材料の性質を説明できる

プロビジョナルレストレーション

- ① プロビジョナルレストレーションの作製手順を説明できる
- ② プロビジョナルレストレーションの調整方法を説明できる

補綴装置の装着

- ① 床義歯装着時に用いる器材の準備ができる
- ② クラウン・ブリッジ装着時に用いる器材の準備ができる
- ③ 義歯装着後の指導ができる
- ④ インプラント装着後の指導ができる

抜歯

- ① 手術同意書を用いたインフォームド・コンセントを説明できる
- ② 抜歯用器材の準備と取り扱いができる
- ③ 抜歯後の注意を説明できる

小手術

- ① 手術同意書を用いたインフォームド・コンセントを説明できる
- ② 各種小手術に用いる器材の準備と取り扱いができる
- ③ 各種小手術後の説明ができる

止血処置

- ① 止血法を説明できる
- ② 止血薬の種類を説明できる
- ③ 止血薬の取り扱いができる

縫合

- ① 縫合用器材の種類を説明できる
- ② 縫合用器材の準備と取り扱いができる

麻酔

- ① 局所麻酔時の器材・薬剤の準備と取り扱いができる
- ② 精神鎮静法の器材・薬剤の準備と取り扱いができる
- ③ 全身麻酔時の器材・薬剤の準備と補助ができる

矯正歯科治療の器具・器材

- ① 矯正歯科用器材の種類を説明できる

矯正歯科治療の検査記録

- ① 口腔内・顔面写真の撮影手順を説明できる
- ② 頭部エックス線規格写真のトレース法を説明できる
- ③ 矯正用口腔模型の作製法を説明できる

矯正歯科治療の装置の装着

- ① 歯面清掃ができる
- ② 接着材の種類と用途を説明できる
- ③ 接着剤の取り扱いができる
- ④ 帯環の種類を説明できる
- ⑤ 帯環の取り扱いができる
- ⑥ ワイヤーの種類と用途を説明できる
- ⑦ ワイヤーの取り扱いができる
- ⑧ ブラケットの種類と用途を説明できる
- ⑨ ブラケットの取り扱いができる
- ⑩ 結紮の方法を説明できる
- ⑪ 矯正装置装着後の指導ができる

矯正歯科治療の装置の撤去

- ① 撤去に必要な器具の種類を説明できる
- ② 撤去に必要な器具の取り扱いができる

小児歯科の歯科治療

- ① 小児の状態把握と対応ができる
- ② 治療に必要な器材・薬剤の準備ができる
- ③ ラバーダム防湿ができる

高齢者の歯科治療

- ① 高齢者の状態把握と対応ができる
- ② 外来診療と訪問診療の補助を概要出来る
- ③ 治療に必要な薬剤や器材の準備ができる
- ④ 口腔衛生管理の概要を説明できる
- ⑤ 摂食嚥下障害への対応ができる

障害児者の歯科治療

- ① 障害児者の状態把握と対応ができる
- ② 治療前の導入法を説明できる
- ③ 治療中の胎動の調整法を説明できる
- ④ 外来診療と訪問診療の補助を概説できる
- ⑤ 治療に必要なやうざいや器材の準備ができる
- ⑥ 口腔衛生管理の概要が説明できる
- ⑦ 摂食嚥下障害への対応ができる

撮影装置と取り扱い

- ① エックス線撮影装置の準備ができる
- ② 歯科用・パノラマ用撮影装置・デジタル画像システムの取り扱いを説明できる

口内法撮影

- ① 頭部の固定ができる
- ② 口内法撮影のフィルムの位置づけと固定ができる
- ③ パノラマエックス線撮影の準備ができる

写真の処理と管理

- ① 写真の処理ができる
- ② 写真の画像管理ができる

放射線の人体への影響と防護

- ① 放射線の人体への影響を説明できる
- ② 放射線防護の準備ができる
- ③ 患者や術者の放射線防護ができる
- ④ 被爆量の測定準備ができる

全身管理とモニタリング

- ① バイタルサインの測定ができる
- ② 意識レベルの把握ができる
- ③ 血圧、脈拍、心機能、呼吸のモニタリングができる

救急救命処置

- ① 一次救命処置の手順を説明できる
- ② 一次救命処置に用いる器材の準備ができる
- ③ 二次救命処置の手順を説明できる
- ④ 二次救命処置に用いる器材の準備ができる
- ⑤ A E Dの取り扱いができる
- ⑥ 全身的偶発症への対応ができる

授業内容

【1年前期】

講義

- 1) 歯科診療補助の基礎的理論・医療事故
- 2) 感染予防
- 3) 歯科診療補助業務の基礎知識・チェアサイドの共同動作
- 4) バキュームテクニック
- 5) 医療廃棄物の取り扱い
- 6) 歯科材料の基礎知識
- 7) 各種材料の取り扱いと管理法
- 8) 総括

演習・実習

- 1) チェアサイドの共同動作
- 2) ポジショニング
- 3) バキュームテクニック 1
- 4) バキュームテクニック 2
- 5) 総括

【1年後期】

演習・実習

- 6) 印象材の取り扱い 1
- 7) 印象材の取り扱い 2
- 8) 印象材の取り扱い 3
- 9) 印象材の取り扱い 4・歯肉圧排
- 10) 模型用材料 1
- 11) 模型用材料 2
- 12) 模型用材料 3
- 13) 合着材および接着剤取り扱い 1
- 14) 合着材および接着剤取り扱い 2
- 15) 総括

【2年前期】

講義

- 1) 仮封材・ワックス
- 2) ラバーダム防湿1
- 3) 形成歯冠修復1
- 4) 形成歯冠修復2
- 5) 形成歯冠修復3
- 6) 形成歯冠修復4
- 7) 医療廃棄物の取り扱い
- 8) 総括

演習・実習

- 1) 仮封材・ワックス1
- 2) 仮封材・ワックス2
- 3) 仮封材・ワックス3
- 4) ラバーダム防湿1
- 5) ラバーダム防湿2
- 6) ラバーダム防湿3
- 7) ラバーダム防湿4
- 8) 総括

【2年後期】

演習・実習

- 1) 印象採得1
- 2) 印象採得2
- 3) 印象採得3
- 4) 印象採得4
- 5) 印象採得5
- 6) 印象採得6

- 7) 模型作製 1
- 8) 模型作製 2
- 9) 模型作製 3
- 10) 模型作製 4
- 11) 模型作製 5
- 12) 模型作製 6
- 13) 形成歯冠修復 1
- 14) 形成歯冠修復 2
- 15) 形成歯冠修復 3
- 16) 形成歯冠修復 4
- 17) 形成歯冠修復 5
- 18) 形成歯冠修復 6
- 19) 形成歯冠修復 7
- 20) 総合実習 1
- 21) 総合実習 2
- 22) 総括

【3年前期】

講義

- 1) 歯科衛生士がかかわる医科疾患患者1
- 2) 歯科衛生士がかかわる医科疾患患者2
- 3) 治療時の補助業務の考え方
- 4) 各治療の診療補助1
- 5) 各治療の診療補助2
- 6) エックス線写真撮影の補助
- 7) 検査
- 8) 総括

演習・実習

- 1) 各治療の診療補助1
- 2) 各治療の診療補助2
- 3) エックス線写真撮影の補助
- 4) エックス線写真撮影の補助
- 5) エックス線写真撮影の補助
- 6) 検査
- 7) 総括

【3年後期】

- 1) 復習総合実習 1
- 2) 復習総合実習 2
- 3) 復習総合実習 3
- 4) 復習総合実習 4
- 5) 復習総合実習 5
- 6) 復習総合実習 6
- 7) 復習総合実習 7
- 8) 総括

医歯薬出版 最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論

評価方法

成績評価の基準として、単位認定規程第5条に記載

定期試験：筆記試験を100点満点として評価する（60点以上 合格）

実技試験：履修項目の到達度について実施。各100点満点を項目数で平均する（合格60点以上）

総合評価：筆記試験と実技試験の点数を平均し科目の評価点とする（合格60点以上）

分野	専門分野（必須）	教育内容	歯科診療補助論
教科目	歯科材料学		
授業形式	講義	単位(時間)	1単位（20時間・10コマ）
開講時期	1年後期	担当	高橋英和
実務経験	あり	高橋英和：歯科医師。東京歯科大学大学院教授。現本校兼任教員。	
概要			
<p>歯科診療の補助に対応するために、歯科治療で用いられる主要歯科材料の種類、基本的性質および標準的な使用法を習得する</p>			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> ① 印象材の種類と基本的性質を説明できる ② 模型用材料の種類と基本的性質を説明できる ③ 合着材・接着材・仮着用材料の種類と基本的性質を説明できる ④ 歯冠風副材の種類と基本的性質を説明できる ⑤ 仮封材の種類と基本的性質を説明できる ⑥ ワックスの基本的性質を説明できる ⑦ 義歯用材料の基本的性質を説明できる ⑧ インプラント用材料の使用目的を説明することができる ⑨ 各種歯科材料を理解し、取り扱うことができる 			
授業内容			
【1年後期】			
<ol style="list-style-type: none"> 1) 歯科衛生にかかわる材料 印象材 2) 模型用材料 3) 合着材・接着材 4) 成形修復材 5) 仮封材 6) 暫間修復材と仮着用セメント 7) ワックス 8) 金属 セラミックス 9) その他の歯科材料 10) 総括 			
医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 歯科材料			
<p>評価方法 成績評価の方法・基準は、単位認定規程第5条に記載。</p> <p>定期試験：筆記試験を100点満点とし、60点未満を不合格とし、次の評語で判定する。</p> <p>秀（100点～90点）、優（89点～80点）、良（79点～70点）、 可（69点～60点）、不可（59点以下）</p>			

分野	専門分野（必須）	教育内容	歯科診療補助
教科目	臨床検査		
授業形式	講義	単位(時間)	1単位（16時間・8コマ）
開講時期	1年後期	担当	高井 周二・専任教員
実務経験	なし	臨床検査技師として医療に従事。現本校兼任教員。	

概要

患者の全身的健康状態や全身疾患を把握するための医療情報、基本的検査、一般検査の意義を理解する

専門的な歯科診療の補助のために必要な基本的知識、技術を習得する

到達目標

- ① バイタルサインのモニタリングを概説できる
- ② 全身状態の症状を読み取ることができる
- ③ 生体検査の方法と結果を読み取ることができる
- ④ 血液検査の結果を読み取ることができる
- ⑤ モニター検査の結果を読み取ることができる
- ⑥ 歯・歯髄・歯周組織検査を説明できる
- ⑦ 歯列・咬合、下顎運動、筋機能、咀嚼機能検査の意義を説明できる
- ⑧ 舌運動・舌圧検査、唾液検査、摂食嚥下機能検査の意義を説明できる
- ⑨ 構音機能検査、味覚検査、口臭検査、微生物学的検査の意義を説明できる

授業内容

【1年後期】

- 1) 臨床検査とは ①倫理と安全 ②意義 ③検査方法 ④検査成績の読み方
- 2) 生体検査 ①検温検査 ②脈拍検査 ③血圧検査 ④心機能検査
- 3) ⑤肺機能検査 ⑥筋電図検査 ⑦脳波検査 ⑧血中酸素濃度検査
- 4) 検体検査 ①血液を用いる検査 ②感染症検査 ③病理検査
- 5) 口腔領域の臨床検査 ①口臭 ②味覚 ③歯科金属アレルギー ④舌
- 6) ⑤口腔粘膜 ⑥唾液 ⑦歯周組織 ⑧歯 ⑨根管内細菌培養
- 7) 摂食嚥下障害の検査法 主な疾患・病態別検査値のとらえ方
- 8) 総括

医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 臨床検査

評価方法 成績評価の方法・基準は、単位認定規程第5条に記載。

定期試験：筆記試験を100点満点とし、60点未満を不合格とし、次の評語で判定する。

- 秀（100点～90点）、優（89点～80点）、良（79点～70点）、
可（69点～60点）、不可（59点以下）

分野	専門分野（必須）	教育内容	歯科診療補助
教科目	看護学		
授業形式	講義	単位（時間）	1 単位（16時間・8コマ）
開講時期	3 年前期	担当	秋吉 節子
実務経験	なし	保健師、看護師として医療に従事。本校兼任教員。	
概要			
医療機関における歯科衛生士の役割、看護の理念、歯科衛生士に必要な看護技術、看護実態について理解する			
到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ① わが国および世界における人口動態と社会情勢の変化を理解する ② 高齢化社会に伴う疾病構造の変化を理解する ③ 病院の機構とさまざまな職種の役割を理解する ④ 看護の理念を理解する ⑤ バイタルサインの正常と異常を学習する ⑥ バイタルサインの測定を迅速かつ的確に行う手技を身につける ⑦ コミュニケーションについての基本的知識を学ぶ ⑧ 患者の特性に応じた適切な対応、援助のための立場、役割を理解する ⑨ 患者の安全、安楽を守るための効果的な方法を学ぶ ⑩ 楽しく食べることの重要性を理解する ⑪ 薬物の種類、正しい投与方法について理解する ⑫ 患者の診療介助、全身状態の観察、対応などを経過に追って記録できる ⑬ 基本的看護のとくつ性を理解し、適切な援助、診療介助ができる ⑭ 患者の全身状態の把握や観察を確実に行うことができる ⑮ 口腔ケアについて理解し、患者に実践できる能力を身につける ⑯ 洗浄・消毒・滅菌の定義と基本的な方法を理解し、取り扱うことができる ⑰ 患者の状態を把握し、起こりうる危険を予知して、緊急時に迅速に適切な対応ができる ⑱ 平均寿命の延長と超高齢化社会の到来状況が理解できる ⑲ 高齢者に対する保健・医療・福祉の現行制度とサービス体系の内容を理解できる ⑳ 医療チームの一員として役割や連携のために必要な事項が理解できる ㉑ 在宅医療の必要性と、職種について理解できる ㉒ 高齢者や家族の立場に立って援助することの重要性を理解できる 			
授業内容			
【3 年前期】			
<ul style="list-style-type: none"> 1) 病院における歯科衛生士の役割 2) 看護の理念 3) 歯科衛生士が知っておくべき看護技術－1 4) 歯科衛生士が知っておくべき看護技術－2 5) 歯科衛生士に必要な看護実務－1 6) 歯科衛生士に必要な看護実務－2 7) 地域医療活動における歯科衛生士の役割 8) 総括 			
医歯薬出版 歯科衛生科のための看護学大意 第3版			
評価方法 成績評価の方法・基準は、単位認定規程第5条に記載。			
定期試験：筆記試験を100点満点とし、60点未満を不合格とし、次の評語で判定する。			
秀（100点～90点）、優（89点～80点）、良（79点～70点）、可（69点～60点）、不可（59点以下）			

分野	専門分野（必須）	教育内容	歯科診療補助
教科目	臨地実習		
授業形式	講義	単位（時間）	20単位（900時間）270：630
開講時期	2年後期・3年前期	担当	各実習施設 実務経験者
実務経験	あり	各実習歯科医院において、歯科医師、歯科衛生士として歯科医療に従事。 本校臨床実習施設指導者	

概要

既習の知識・技能を実践と結びつけながら業務の理解を深め、実践能力を養う

到達目標

- ① 計画的・合理的な介補ができる
- ② 機敏さと臨機応変の処置ができる
- ③ 仕事に対する創意・工夫・能率化ができる
- ④ 正確・丁寧・安全にできる
- ⑤ 観察・記録が適切に確実にできる
- ⑥ 指示通りの処置ができる
- ⑦ 基礎学理の理解ができる
- ⑧ 歯科用語の使用ができる
- ⑨ 研究心を持つことができる
- ⑩ 責任感をもつことができる
- ⑪ 計画性を持って行動できる
- ⑫ 積極的に行動できる
- ⑬ 忍耐力を持って行動できる
- ⑭ 清潔で清楚な服装ができる
- ⑮ 適切な身だしなみができる
- ⑯ 適切な話し方ができる
- ⑰ 素直な返事ができる
- ⑱ 協調性を持って行動できる
- ⑲ 親切・丁寧に一年することができる
- ⑳ 自発的な整理・整頓・清掃ができる
- ㉑ 器材・物品の取り扱いが適切にできる
- ㉒ 健康に留意することができる

授業内容

【1年次】

歯科臨床実習

【2年次】

介護施設実習

保育園・幼稚園実習

歯科臨床実習

【3年次】

歯科臨床実習

各科目総合

定期試験・レポート・提出物及び出席による総合評価（本校単位認定規程による）

分野	専門分野（必須）	教育内容	選択必修分野
教科目	医療事務		
授業形式	講義	単位(時間)	2単位 (32時間・16コマ)
開講時期	1年後期・2年前期	担当	後藤 祥子
実務経験	あり	医療事務管理として医療事務に従事。本校兼任教員。	

概要

日本の保健制度を理解し、保険請求事務に関する知識を習得する

到達目標

保険の仕組みを理解し、診療報酬点数を算定できるようになる
カルテの内容を理解して、診療報酬点数を算定できるようになる

授業内容

【1年後期】

- 1) 医療保険について
- 2) 診療報酬について
- 3) 初診料について
- 4) 再診料について
- 5) 投薬料について
- 6) 注射料について
- 7) 文章問題
- 8) 総括

【2年前期】

- 1) 処置料
- 2) ギプス料
- 3) 処置料 カルテ点数計算
- 4) 手術料・麻酔料
- 5) 輸血料
- 6) 手術・麻酔・輸血 文章問題
- 7) カルテからの点数算定
- 8) 総括

社会保険研究所 医科診療報酬点数表
社会保険研究所 レセプト作成テキストブック

評価方法 成績評価の方法・基準は、単位認定規程第5条に記載。

定期試験：筆記試験を100点満点とし、60点未満を不合格とし、次の評語で判定する。

- 秀（100点～90点）、優（89点～80点）、良（79点～70点）、
可（69点～60点）、不可（59点以下）

分野	専門分野（必須）	教育内容	選択必修分野
教科目	介護概論		
授業形式	講義	単位(時間)	1単位（16時間・8コマ）
開講時期	2年後期	担当	専任教員 実務経験者
実務経験	あり	歯科衛生士として歯科医療に従事。現在、本校専任教員	

概要

わが国の高齢化や高齢者の生活・社会環境等を理解し、支援する方法について学ぶ
また、歯科衛生士の業務としての口腔機能向上について理解する

到達目標

- ① 介護の基本を理解する
- ② 老化について理解する
- ③ 障害について理解する
- ④ 介護におけるコミュニケーション技術を習得する
- ⑤ 口腔ケアについて説明できる
- ⑥ 摂食嚥下について説明できる
- ⑦ 口腔内状況と評価方法を説明できる
- ⑧ スクリーニング検査を説明できる
- ⑨ 摂食嚥下機能の異常について説明できる
- ⑩ 機能訓練について説明できる

授業内容

【2年後期】

- | | |
|--------------------------------|-------------------|
| 1) 介護の基本 | 老化の理解 |
| 2) 障害の理解 | 介護におけるコミュニケーション |
| 3) 口腔ケアの定義、考え方 | |
| 4) 全身状態の把握 | |
| 5) 口腔内状況とその評価方法 | |
| 6) 専門的口腔ケア | 症状に対応した専門的口腔ケアの手技 |
| 7) 周術期口腔機能管理・認知症への対応・歯科医療の将来展望 | |
| 8) 総括 | |

医歯薬出版 新編 超高齢社会のための専門的口腔ケア

評価方法 成績評価の方法・基準は、単位認定規程第5条に記載。

定期試験：筆記試験を100点満点とし、60点未満を不合格とし、次の評語で判定する。

- 秀（100点～90点）、優（89点～80点）、良（79点～70点）、
可（69点～60点）、不可（59点以下）

分野	専門分野（必須）	教育内容	選択必修分野
教科目	手話講座		
授業形式	講義	単位(時間)	2単位（32時間・16コマ）
開講時期	1年 前期・後期	担当	柴田 悦子
実務経験	なし	大分県聴覚障害協会手話講師。本校兼任教員。	
概要			
コミュニケーション手段としての手話の理解 手話講習会入門過程修了認定取得講座			
到達目標			
1) 聴覚障がい者とのコミュニケーション方法の習得 2) 聞こえないことにより生じる様々な問題の理解			
授業内容			
【1年前期】			
1) 手話の基礎 手話による表現（指文字練習）			
2) 手話による表現（単語練習）			
3) 手話による表現（単語練習）			
4) 手話による表現（単語練習）			
5) 手話による表現（会話練習）			
6) 手話による表現（会話練習）			
7) 手話による表現（会話練習）			
8) 総括			
【1年後期】			
9) 手話による表現（手話スピーチ）			
10) 手話による表現（手話コーラス）			
11) 手話による表現（単語練習） 第27・28課「動物」			
12) 手話による表現（単語練習） 第29・30課「自然」			
13) 手話による表現（短文・長文練習） 第39・40課「総合レッスン」			
14) 手話による表現（基本練習例文）			
15) 手話による表現（総合練習）			
16) 総括			
全日本ろうあ連盟出版局 手話学習 ボランティア活動の手引き 全日本ろうあ連盟出版局 ハジメテノ手話テキスト			
評価方法 成績評価の方法・基準は、単位認定規程第5条に記載。			
定期試験：筆記試験を100点満点とし、60点未満を不合格とし、次の評語で判定する。			
秀（100点～90点）、優（89点～80点）、良（79点～70点）、 可（69点～60点）、不可（59点以下）			